

昭和四十八年十二月招集

第四回館山市議定会定例会會議録第二号

館山市議 会





次

五 五 五 四 四 三 二  
二 二 二 六 二 五 〇 九 二 二 二 一 一 一 一 一 一 一 一

一、館山市役所議場

二十四名

二 番 林

四番鈴木穩

六番栗原一雄

番石井正每

一三番五十嵐早

一六番士井蓮爾

一九番島野茂樹郎

二一 一番 鈴木市蔵

二四番西村真次

二八番田中祿郎

三〇番 遠山ヨネ子

一四番伊賀多朗

二六番飯田義男

昭和四十八年十二月七日午時十時開議



日程第一 行政一般通告質問

開 議 午前十時一分開議

○議長（吉田勇治郎君） 本日の出席議員数二十三名、これより第四回市議会定例会第二日の会議を開会いたします。

本日の会議はお手もとに配付の日程表により行ないます。

行政一般通告質問

○議長（吉田勇治郎君） 日程第一、通告による行政一般質問を行ないます。

締切日の十二月三日正午までに提出のありました議員、要旨及びその順序はお手もとに配付のとおりであります。

なお、申し遅れましたが、開会前頭市長の提案理由並びにあいさつをプリントしていただきたいという要望がございましたのでそれを配付いたしますから御了承願います。

これより順次質問を行ないます。通告質問者は以上のとおりであり、他に関連質問等の発言もあるうかと思いますが、きょうは通告者のみといたします。

発言の方法は、最初の発言を二十分とし、執行当局の答弁は時間外、再質問は答弁を含めて三十分以内といたします。

これより順次発言を願います。まず、流山源次郎君御登壇願います。

（三番議員流山源次郎君登壇）

○三番（流山源次郎君） 私は、物価問題及びそれに関連する市の行政について御質問をいたします。

物価安定政策は、ただ一館山市のみではどうにもならない問題であることは十分了解するものでありますが、ただ手をこまねているということではなくして、市自体が幾ぶんなりとも物価安定策ができる道もあるのではないかと考えられます。

物価対策審議会もつくられており、これら大いに利用して今までどのような物価対策問題に取り組んだのか。また、現在市内の物価は、他県及び他の市町村等に比べてどうなのか。市における調査資料があれば教えていただきたいと思ひます。

物価問題は、今後ますます市民に切実な問題としてつきまとうことを考え、市として今後の物価対策、安定対策というべきものに對してどのように取り組む考えであるのか、お聞かせ願ひたいと思ひます。

また、市商工観光課で鮮魚商組合に對する今度の市場開設に協力したことは魚介類安定策としてどのように考えておりますか、現在、日本全国における漁業協同組合と魚商協同組合との間に市場の主導権争いという問題が非常に深い問題になっておりますが、市の行政指導として水産、商工課においては事前にどのような対策が話し合われましたか。

今後における漁業生産者また漁業販売者の間に何らのわだかまかが起こらないかどうか。

新しい市場が平久里川岸壁につくられまして、近くに館山市の中心海水浴場をひかえ、排水、汚水等の処理また衛生面における指導は万全を期したのかどうか。

以上の点をお聞かせいただきたいと思ひます。

（市長本間 謙君登壇）



○市長（本間 譲君） 通告質問をなされました六議員の方々に對し順を追うて御回答を申し上げたいと思ひますが、くわしいこと等につきましては教育長、各課長をして答弁をいたさせますのであらかじめ御了承を願ひたいと存じます。

流山議員さんのご心配なさる物価対策につきましては、きわめてこれは重要な問題でございますして、市といたしましてはたえず国、県の様子をうかがつて、それを市民に伝えていくと、こういう考え方でございます。

なかなか、これは一市町村ではどうにもならないことでございますが、ただ、現在は品物があつても買ひ占めをするというようなこともあつたように思われておりますが、實際については油類はともかくとしましても、紙類とか、砂糖とか、塩とかそういうものは買ひあさりをしたり、買ひだめをしたりする人があるからそういう結果をうむではないかということもありまして、市といたしましては十二月一日づけの回覧板をもつて買ひ占め、売り惜しみ、それから物を粗末にせず必要のものはなるべく買ひわないうちに、そしてまた買物等についてはなるべく容器を持つて行って買う。それではないと、今の化学の包装紙なんかはいっぱいよこしますから、それが公害ともなりますから、なるべく入れものを持参するようにということ、それから町をきれいにすること、うことを書いて十二月一日づけで回覧板を印刷して市民に指導をいたしたような次第でございますが、物価問題は全くこれは困難な容易ならざる問題でございますが、やはり住民一人一人がそのことをよく認識しておくことよつてある程度の価格の引き上げをしないようになるんじゃないかと思ひますが、一たん上るとなか

なかこれは下りませんから非常にむずかしい問題であると思ひますが、そういう趣旨において回覧板をもつて市民に理解を求めたわけでございます。

なおまた、十五日の広報で同趣旨のことを市民に理解をしていただきたい。協力をしていただきたい。こういうことで出すように原稿を回わしてあるわけでございます。

流山議員さんのこの鮮魚商組合の市場と物価対策というふうな御質問でございますが、これは鮮魚商組合が多量に仕入れて、つまり量の多いことはやはり値段も安くなると私は思ひわけですが、安い値段で仕入れて組合員に豊富なものを安く供給をする。こういうことになりましたので、鮮魚商そのものの経営にも非常にいいんじゃないかと思ひます。また、需要家といたしましても、安いのを買われるんじゃないかと、そういう意味におきまして鮮魚商組合からの方針を伺ひまして、市のほうでもできるだけ物価対策の見地からしてもお手伝ひをした。こういうふうな次第であります。それから、鮮山漁協と鮮魚商組合、商工課、水産課とはいろいろその仕事の内容につきましまして数回にわたりました協議をして行なつておりますので、トラブル等が起これないと私は考へておるわけでございます。これは流山議員さんもお聞きになればわかると思ひますが、そういうことでございます。

それから、鮮魚商組合の市場の排水について御心配なさつておられますが、これについては公害あるいは海に悪水を流されては海をもつて観光の生命とする館山ではこれはとんでもないことでございますので、これについては十分なる注意をいたしますし、また今後も監督をしてそういうことのないように施設をいたさせ



る所存でございますので御了承をいただきたいと思います。

以上、簡単でございますが、一言お答え申し上げる次第でございます。

○三番（流山源次郎君）

私の質問に対しまして市長から大体の説明がございましたが、私どもとしてもっとくわしく聞きたいということは、物価対策の取り組みとか、また他県、他市町村との物価のそういう相違がどういう現状になっておるのか。

また、今後の見通しとかそういうものを教えていただきたいと思います。

○商工観光課長（鈴木 力君）

お答え申し上げます。

物価問題につきましては、総体といたしまして国民経済全般にかかる問題だと思ひまして、地方公共団体におきます物価統制の推進につきましては非常にむずかしい問題でございます。まして市町村行政関係におきまして、この物価問題をいかにして取り組んでいくということにつきましては、なおさらむずかしさがあるわけでございまして、また、これらにつきましては、行政上明確にされておらないのが実情でございます。

当市といたしましては、昭和四十六年六月に物価問題協議会を設置いたしました。委員の皆さんにいろいろと御協力を願っておりますが、現在、物価問題を推進する上におきまして、やはり消費者行政というものを考えましてこれらを推進することが消費者行政につながる道じやないかというよりな考え方をいたしまして今までも消費者行政を中心として推進してきたわけでございます。たとえば、消費者の知識の高揚をはかるための広報活動あるいは消費者からの苦情相談の実施、これは毎月二回行なっております。

けでございますが、消費者からいろいろ日常生活における苦情等について相談によって処理する。こういうことでございます。

それからなお、本年四月から消費者生活モニター制度を採用いたしました。消費者の意識調査を随時行なっております。

それから、消費生活展、それから消費生活に関する市民運動の提唱ということでございます。

それからなお、消費生活共同組合これは消費者の自衛手段として組合によって供給、需要を行なう。この生協活動ということにつきまして、その組合の設置、推進を行なっております。

ただいま申し上げましたように、一市町村におきましては消費者行政これを強化、拡充していくことが物価につながる道であるということと現在までまいっております。

それから、館山市における物価の動向でございますけれども、一般的に物価というのは生産過程から流通過程における卸売り物価、それからなお消費者に渡る小売り価格が消費者物価ということとで、卸売り物価、消費者物価この二つが俗にいう物価ということとでございますが、物価上昇は通常物価指数をもちまして何％、このようにいわれておるわけでございますが、現在総理府におきまして毎月一庶昭和四十五年度平均を一〇〇といたしまして、消費者物価指数を調査しておりますが、これに基づきまして一〇％上ったとか、あるいは何％程度上るであろうということをやっておりますが、また、県とか、市町村におきまして、毎月の小売り物価統計調査によりまして調査した小売り価格というもので物価動向というものをみておるわけでございます。

現在、この小売り物価調査は食糧、住居、光熱、被服、雑貨こ



の五大品目別に、さらに三十三中分類別に調査がされておるわけでございます。これらは全国的あるいは県段階において消費者価格ということをとらえております。

そのほか、商工会議所におきまして毎月小売り店の販売価格を調査しておりますが、これらも一つの参考として私ども使用しております。

また、課といたしましても、生活必需品が非常に急騰したというようなことで、たとえて申し上げますと、砂糖あるいはプロパン、灯油、チリ紙につきましても、市内の販売業者から小売り価格を調査しておるわけでございます。こういうようなことで一応市内における物価の動向というものをとらえております現状でございます。

それからなお、館山市が県と比較してあるいは全国的に比較してその消費者物価が高いか、低い。こういうような比較でございますけれども、これは非常にむずかしいわけでございます。消費者物価指数そのものをもって他市と比較したり、県平均あるいは全国平均を比較するということは適当ではないと思います。

まあ、一つの目安として見比べていくことはできるかと思いますが、総体といたしましては物価指数というものを見た場合に、総合におきまして昭和四十八年九月におきまして県下の全市平均の上昇指数を見た場合に二八・六、これは四十五年の平均を一〇〇としているわけでございますが、館山市の場合におきましては二八・〇ということでございます。千葉県下の全市平均指数より〇・六低いということが数字上わかるわけでありまして、

それからなお、品目別でございますけれども、たとえて申し上げ

げますと、生鮮食料品等比較して見ますと、これは野菜、鮮魚、食肉でございますが、千葉県下の全市の平均指数が一三・五に對しまして、館山市が二七・八、それからなお全市対前年同期の比較でございますが、県下の平均が一三・九、これに對しまして館山市が一五・〇こういうようなことでございます。

販売価格につきましては、いろいろ見方があるわけでございますけれども、一応物価指数から見まして他市あるいは全国平均等の比較になりますと、このような状況でございます。

〇三番（流山源次郎君） いろいろ商工課長より大体的な物価に對する大きな目で見ても広い範囲の問題についてのパーセンテージとかそういうものがあらわされたのでございますが、私がここで、物価問題で館山市に特に要望したいことは、確かに物価問題を持ち出してくれば当然そこにいきつくのではないかと思います。館山市自体が館山市の中の物価問題を、限定された館山市の力である程度物価の安定とか、そういうものができるんじゃないかということの取り組みの問題を私は提案しているのでございます。館山市に現実にあるわれわれびんとくるような、そういうような問題を自分としては取り上げて、館山市としてどういう手が打てないかというようにございまして。

それから、先ほど市長さんの回答の中に先月の中旬から下旬にかけてまして砂糖とか、チリ紙とかそういうものが館山市から姿を消してしまつたということで、市民一人一人の買いだめ、市民の自覚ということに對してもちょっと触れておりましたんですが、この問題につきまして後日自分なりに調査をした結果でございますが、これをみますと、館山市の市民の人は、比較的買いだめと



かそういうことをやるという意思は非常にしっかりしたものでございまして、鴨川等はすでに先月の下旬にほとんどもうそういう買いだめ形勢があつてなくなつてしまつた。

横須賀あたりでは十月の中ばから十月の月末にかけてほとんどもうそういう傾向があらわれておつたということも調査の結果そういうものが出てきたんですが、それで、房州の場合見ますと鴨川からだんだんこちらにそういう手が伸びてきて、鋸南地区から伸びてきて、館山市が一番最後にそういう現実になつたという事実が出てゐるんです。

そうすると、館山の市民の人は買いだめなんかということに対してほとんど犠牲を受けたのは館山市民です。市民の人は館山市にいけばいつでも買えるということであつたのが砂糖もない。何もないという現実になつてしまつて、うち当たりの近所の八百屋さんとか、魚屋さんに話を聞いて見ますと、ある日突如大型車とか、トラックを持ってきて砂糖も何とんど買い占めて、いま時分なんで買うのかと商店の人がたまげておつたら、それから二、三日たつたら館山市に何にもなくなつてしまつたという現実を聞いておると、館山市民という人は比較的自分だけよければいいという気持ちの人が少ないのじゃないかと思ひます。

結局、安房郡下で一番買いだめの品物がなくなつたのは、最後は館山市です。最後に館山市がなくなつてしまつて、もう安房郡市がお手あげになつたというのが現実の調査の結果出てきたんですが、先ほど課長さんの話でもちょっと触れましたが、館山市はよその地区に比べると物価が相当高いということをいわれておるといふ点ですが、私なんかも八月とかになると館山の物価が高い

ということを開いておりまして、実際問題といつたしましては、館山市がどれだけ高いのかということでは八月のときですが、石油あたりがこんなに危機が起る前に、私なんか漁協の關係で漁協から灯油を比較的市民の方よりも安く買つておるのでございますが、そのときの漁協の価格と、たまたま夏休みで柏から自分の友だちが避暑にきまして、その人の話を聞いたら、その時点で六十円差があつた。千葉県の北の柏で。おまえが特別のところから買つてゐるのじゃないかということを開いたら、柏ではどこに行つてもその値段で売つてくれると。館山市では私なんか普通の人より漁連からくるものを幾らか利潤を見て漁協から買つておる安い灯油自体が柏と比べると一般の灯油より一八リットル六十円の差があつたんです。一八リットルで六十円違つと、柏は東京に近い。こゝまで柏から輸送費が一八リットルで六十円の輸送費は考えられないと思ひます。

そういう面もございまして、またそうかといつて館山が必ず物価が本当に高いものかどうかという点でございまして、館山市にカツオ船がえさを入れているんですが、そのカツオ船が焼津なりまた茨城船なんかは地元で水揚げしたところから普通なら生鮮食料何日分というものを仕込んでくるんですが、カツオのえさだけを館山に入れて出港するのでなくして、わざわざ時間をかけて館山から野菜を買つていく。

だから、私なんかもえさを売りながら、あんた方は自分の茨城県なり、静岡県なり釣餌なんかを仕込んだ時点で野菜を仕込んできたら、えさを仕込んだらすぐ出港できるじゃないかという話をしたんですが、館山で仕込んだ場合大体五%安い。



そういうことを聞きますと、館山は必ず物価が高いということはない。カツオ船なんかは全国の主要の港々を回っておりまして、少しでも安いものというところでカツオ船自体が物価の高い、高いという館山市が一番安いんだ。それで館山から仕込んでいくという現実には、ただ一概に館山高いか、そういうものを突きつめていったら館山市自体で物価対策がある程度考えられるんじゃないかということです。

それから、これは私が実際見た問題ではないんですが、市が田んぼの転換策としてレタスの栽培を奨励しておりますが、ある地区の農家に行きますと、レタスの企画にならないものが市場に出ないで大量に貨物に乗せられて熱海とか、箱根の宿屋に一括して流れていってしまうという話を聞いておりますが、そういったものを市が考えて地元によれば、地元でも豊富になって安くなると思うんです。

そういう、じかに地元こういう問題があるということなんです、この点につきまして、どういう課長さんの考えか、お聞かせいただきたいと思います。

〇市長（本間 謙君） たいへん流山さんは適切なお話しをいただきました、私ももうそういう線にそってこれから対処しなければならぬ。今までもやっておるわけでございますけれども、やっぱりな御意見をいただいたので、その線にそってこれから対策を講ずるといっても、長い期間ですからいいと思いますから、どうもありがとうございます。

〇三番（流山源次郎君） 今、市長さんから館山市自体もそういう物価問題に対するこれからの取り組みをお聞きしまして、そうし

て次に、鮮魚商組合の新しい市場ができたということに対して、表面的は確かに水産課と商工課との話し合いが再度持たれたと思います。

それで、一応漁協内部におきましても、表面はむこうが出ておるものならばしょうがないじゃないかということで、新しい市場を設立することに対してあえて妨害するということはないのでございまして、実際問題といたしまして、市場ができるまでの経路また館山市の市場というべきものは、元の船形の市場と違いました、館山市内の一般の魚屋さんが館山市の生産の事業者と一緒に、合併まではもってきた一つの形成された市場でございまして、船形の協同組合とちょっと様子がかわっておりますのでございまして、それが館山船形の漁協が合併ということの意向になってきてだんだん様子がかわってきました、魚屋さんの、生産者でなくしてそれを買って販売する魚屋さんの方がなんか自分で独力で木更津、横須賀等で行なわれているところの鮮魚商というべきものを自分たちでつくるという線になってまいったのでございます。

現在でも、館山の支所のほうでございまして、旧館山の市場のほうは、親組合の船形漁協から人件費等そういうものを援助を受けているという状態でございまして、今後そういう立場になった場合には、当然館山の魚市場自体がどうにもならなくなるという現実でございまして、これはしかたがないといたしまして、私が開きたいことは、商工課と水産課が話し合われたということで、現在館山にはまだ百人近くの漁業者がおります。その漁業者が取ってきたものを、なにもこちらの市場で買わないというわけじゃないし、この市場に持ってきたらいいじゃないか。またこ



の市場から館山に出張してきて、館山で買ってやるというんじゃないかという話が出て、表面は何でもないんですが、ところが、漁業者の場合は、魚を朝市場に持ってくるには、夜間二時、三時から出て網をあげるとか、魚を始末して夜明けに市場に運んでくるわけです。

ところが、現在時代が進んでおっても、漁師が必ず一人の家が自動車一台持っているわけではない。生鮮のなまものとか、また市で放流したクルマエビとかそういうものは生かしたままの商品価値があるわけですから、館山のこちらの市場まで運ぶとなると酸欠設備をするとか、自分で自動車を持たなければ生きたものを合までの館山の市場に買ってもらった値段で買ってもらうわけにはいかない。

そうすると、自分たちが港に帰ってきて作業を終わってすぐ近くの市場に出すということで用が済んだのが、今度平久里川までこなければならぬ。

今のところ、魚商組合でこちらに買いにきてくれるということですが、取った生産者は館山の市場の施設を使って待っておる。そうすると、館山の市場に対しても三分の歩金を払わなければならぬ。そうして今度買いにきた人に対してまた歩金を引かれると合計で七分のものを払わなければならない。三分で済んだ口銭を今度は七分取られてしまうということになると、業者が市場を持てば、木更津や横須賀からきた魚を先に買ってしまいうから、地元で取れた生鮮な魚というのは、魚屋もきょう売れるものを買い、ええ用が済む。よっぽどでなければ館山まで買いにくるような奇特な魚屋さんはほとんどないと思います。

そういう面は、水産課なり、商工課は一体どういう対策を話し合われておりますか。その対策をお聞きしたいと思います。

○水産課長（谷貝茂生君） 館山の魚市場は、漁協が開設されたというところでやってきたわけでございますが、鮮魚商がその魚市場の一部を借りて、地元であるものだけでは不足しますので、木更津とかほかからも荷物を入れてまして処理しておたわけでございますが、今回、鮮魚商が新しく市場をつくるということになりましたけれども、館山の魚市場はそのまま存続されるわけでございまして、そして鮮魚商の方々が鮮魚商組合として新しい市場に移りますけれども、その中の個々の人たちがやはり館山の市場の仲買人という形でもってあそこでもって魚を買うわけでございまして、館山の魚市場は今までと同じように継続されていくわけでございます。これをまとめて新しい市場に運んでいくということとじゃございませんので、影響はないと思います。

ただ、漁協の経営の立場からいいますと、館山からあがる地元の魚は平均にして金額にして約三千万ぐらいでございますが、鮮魚商がこれだけでは足りないということでほかから入れておまして、これについては新しい市場でやるということでございまして、それから、館山の漁民の方々からあそこを魚をあげて、それをわざわざ新しくできた鮮魚商の市場に持っていくということではなくて、館山の市場でそのまま処理してもらえということと、鮮魚商組合に移りまして、その中の個々の人たちは仲買人として館山の市場でやはり魚は買いつけるということとでございますので、影響はないと思います。

○三番（流山源次郎君）

時間がなくなって来ましたが、私は要望



というんじゃないんですが、一応行政執行する市に對しまして申し入れておきたいことは、今度新しくできました市場というべきものは、市場自体で、魚商組合が自分たちだけで今度主体になって市場を開設するんだ。それはけっこうなことなんです。

ところが、問題になるのは、その市場の方が何も好きこのんで館山市に汚染されないきれいな魚があるんです。千葉県あたりでは勝山あたりを限度としてぎりぎりの線で、本当にみんなが安心して食えるという魚の汚染度です。そういうものを持ってるのはここだけしかない。

実際問題は、ところが、今度新しくつくる組合は何を主体にしておるかという点、木更津の市場は全然だめになって経営が成り立たなくなつてこっちに出てきた。それと横須賀なんです。それは同じ神奈川県三崎あたりであれば、遠洋漁船とかそういうものできれいな魚の入る経路がわかりますが、横須賀なり、木更津なりの漁協は、もう東京の市場に行つたら相手にされない。船形の魚が十円で買えるものだったら、横須賀とか、木更津の市場から出荷されたものは五円なり、三円、四円という相場が東京市場ではつきりきまつて、実際出荷した名前を書いてこいということになっておる。その木更津、横須賀の魚を主体にした魚を扱った場合になりますと、私は公害だということとはつきりいいません。しかし東京都の、一番国の中心である市場がそういうった魚をダウンをつけておる。だから、私は公害とはいわないけれども、東京市場自体が危険な魚というんで買わないように値段を下げておるといふものを市場が館山市に持つてきて、現在よそできらわれておる魚を館山市にぶんまいて、地元で取れたきれいな魚が値

が安くなってみんなに回らないということになりますと、考えようによつては館山市民として大きな問題があると思うんです。市としても、そういうものを頭に入れてもらつて、今後の指導をしていただきたいということをお願いして私の通告質問を終わります。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、流山源次郎君の質問を終わります。次、渡辺軍治郎君御登壇願います。

（一〇番議員渡辺軍治郎君登壇）

○一〇番（渡辺軍治郎君） 私は、四つの点について質問いたします。

まず第一点は、最近の灯油、ちり紙、洗剤、砂糖等の生活必需品の価額の不当なつり上げについてであります。

今、全国的な品不足を理由に不当な物価のつり上げが行なわれ国民生活は不安に追い込まれています。その根源は、自民党田中内閣の大資本優先の経済政策による悪性インフレの進行にあります。

特に、石油危機による経済不安は深刻になっております。その原因は、アメリカの世界戦略に基づく力の政策がアラブ諸国との対立を深め、日本がアメリカの従属下にあるという政治的な背景がアラブ諸君等の不信をかい、石油の輸入を困難にしているところにあります。

こういう中で、大資本の買い占め、売り惜しみが公然と行なわれ、経済不安を増大させております。

一例をあげれば、ちり紙のバニック状態の起こつた原因は、関西のスーパーや大口取り扱い店がメーカーのトイレットペーパー



三十円の値上げ通告を拒否したことから、メーカーが出荷をとめるといふ操作をしたために品不足となり、混乱を引き起こし、これがきっかけとなって全国的にエスカレートしました。

このように、大資本は品物の操作によって価額をつり上げ、不当な利益をあげております。

公正取引委員会が石油連盟と大手元売り各社のやみ価額協定、出荷数量制限、安売り店への出荷規制の疑いで強制調査を行ないやみカルテルの実証をあげております。

館山市でも十一月二十日頃よりちり紙や洗剤、砂糖がなくなるというところで市民が買い急ぎ、スーパーや大口取り扱い店は大混乱になりました。こうした中で、ちり紙は百六十円が三百円に、百五十円のもの五百円に、砂糖も百四十八円から二百七十五円と、二倍から三倍以上の大幅な値上げが行なわれ、午前と午後で売り値がつり上げられたり、他の商品との抱き合わせて五百円以上買わないと売らない。こういう事態も生まれております。

それでは、商品はないのかというと、店員の話では倉庫にたくさんあるといっております。通産省も品物は十分あるといっているのに、売り惜しみをして価額をつり上げています。

灯油の価額も三百八十円に凍結したと発表していますが、四百五十円で売られています。一応買い急ぎはおさまったものの、価額は上ったままで、市民生活を圧迫しているのが現状です。このような状態は市としても放置できない問題であると思います。

また、農民はビニールや重油の不足でハウス経営に大きな打撃を受けています。

そこで、次の三つの点について実施する必要があると思います。

第一は、スーパーや大口取り扱い店の在庫や荷受けの実態、仕入れ価額と小売り価額の関係等これを調査して適正な価額で販売されるような行政指導を強めることであります。

第二は、行政指導を強めるために、物価問題協議会を権威のある対策委員会に改組して、市民生活の安定をはかるため積極的に対処することであります。

第三は、大資本の買い占め、売り惜しみを嚴重に規制し、農業経営に必要な資材、生活必需品の生産と適正な価額での円滑な流通を確保するよう、関係行政機関に意見書を提出することであります。

以上、三つの点について実行する考えがあるかどうかをお伺いします。

第二点として、水害防止対策の緊急性、重要性についてですが、十月二十八日の集中豪雨によって床上浸水十二戸、床下浸水百九十九戸、護岸、路線の決壊、農作物の冠水等大きな被害を受けました。

この被害の状況を見ますと、昨年九月十五日の集中豪雨のときと同じ地域に発生しております。

私は、昨年十二月の議会でも水害防止対策について、特に排水路の整備の緊急性について質問しました。また、市が排水路の整備を怠った場合は人災として被害の補償をすべきだと強調しました。

本年八月二十四日招集の九月定例会でも、降雨期をひかえて排水路の整備が遅れている点について追及しました。その後、南町の排水路、北条橋橋通り小沢旅館脇の排水路の改良工事はやられました。したが、その他には手がつけられなかったため、昨年と同じよ



うな水害を繰り返しております。

また、県土木の關係になります。官城の豊津橋、館野の田中橋の流域で大きな水害を受けております。これも従来問題になっているのに放置されたままになっております。

以上の経過が示すように、水害防止対策の緊急性、重要性について真剣に考えていないのではないかと思います。市長はどう対処する考えなのか。お伺いします。

次に、第三点として、北条の海水浴場を観光上どう位置づけてどのように充実させるかという問題についてであります。

北条の海水浴場は、関東で唯一のすぐれた海水浴場として都人から親しまれてきたことは周知のとおりであります。したがって、館山市の観光上からも失ってはならない宝であると思ひます。

最近、那古の海水浴場が防潮堤の建設で失われたため、北条の海水浴場の重みは一そう増すものと考えられます。

ところが、近年、海水の汚濁と海浜の沈下の傾向は砂浜を狭げ、放置すれば海水浴場として致命的な打撃を受けることになってきます。

そこで、次の三つの点について実施する必要があると思ひます。

第一は、きれいな砂浜を造成するため、他から砂を入れること。また、砂が風で飛散しないように砂防措置を講ずること。

第二は、海水浴場としての価値を問われる海水の汚濁を防止するため、海底を浄化すること。

第三は、汐入川と湊川の河口をさらって清掃すること。

以上、三点について実施する考えがあるかどうか。お伺いします。

次に、第四点のし尿処理場の公害防止についてですが、藤原のし尿処理場が老朽化し、負担能力を越えて稼働していることはたびたび問題になりました。しかし、公害についてはあまり問題にされなかったようであります。

私の調査では、消化槽のガス漏れが相当なものだと感じました。事務室の銅線は二、三日でまっ黒に変色し、ポケットの銅貨や砲金のバルブ類も一日で変色するといわれております。

私は、消化槽の上に上って見ましたが、ガス漏れの部分はコンクリートがぼろぼろになっております。三十分ぐらい見聞して帰りましたが、ガスの悪臭のためからだがだるくなって三時間ほど横になりました。

このような中で働いている従業員の健康が心配されますが、市長はどのように対処されているか。お伺いします。

また、相当濃度の高い処理水が排出され、海を汚染していると聞いていますが、市の公害防止条例第二十七条の規定からどう対処するか、お伺いします。

なお、広城市町村圏で処理場をつくることになっていますが、いつできるのか。この処理場ができた場合、藤原の処理場はどうなるのか。お伺いします。

以上をもって、質問の要旨を終わります。

(市長本問 議員登壇)

○市長(本問 議員) たいだいま、渡辺議員さんからの御質問に對しましてお答えいたしたいと存じますが、物価問題については非常に憂慮すべき状態にあることはそのとおりであると思ひますが市がスーパーとか、あるいは問屋に行つて在庫品を調べたり、い



ろんなことをするというようなことは、市にそういう権限が私はないじゃないかと思ひます。これは国のほうでそういうことはやっていただくと思ひますが、それにつきましましては情報をキヤッチしまして、そういう人があるならば、国、県を通じて処置をしてもらうようにいたしたいと存するわけでございます。

それから、物価対策委員会を改組のお話してございますが、現在物価対策委員会も非常に軌道に乗りまして、皆さま方が熱心に対処しておるわけでございますので、これを強化して成果を上げていくことといたしたいと存じます。

大企業の買い占め、売り惜しみ等というようなお話してございますが、この問題についてはそういう事態が館山にも及ぼしてあるような事件を発見した場合に、直ちに先ほど申し上げましたように県、国に要請して対処を要望いたしたいと考えておる次第でございます。

いずれにしても、住民に対して先ほど申し上げましたがやはり物を節約して不要な物を買わないというような、物を大事にするというようなことをお願いするようにやっておるわけでございますが、そのように御了承をいただきたいと存じます。

それから、集中豪雨等に対する対策についてでございますが、これは予算の示すところによって逐次改善されております。またしなくちゃならない重大な仕事でございますので、関係課において検討しておるわけでございますが、集中豪雨による突然の被害等につきましては、よほどこれは検討していかなくちゃならぬわけですが、そういう事態を現在も考えておりますが、これからも考えてそういうことのないように、前もってできるものは対処

したいと考えておる次第でございます。

そのほか、普通の場所においては今度の土地基盤整備等におきます排水関係も大いに考慮して、平地におけるそういう被害のないように、ここにも繰り込んで対処するように要望しておる次第でございます。

いずれにしても、逐次改善しつつあるし、これはまた住民の要望によってそういう被害が起きないようにしなければならぬと私は考えておる次第でございます。

それから、北条海岸の海水浴場の件でございますが、おおせのように館山市の観光資源といえますと、まず海ですね。海水浴場というところが大きな役割をしていることは御承知のとおりでございますが、これに対してはいろいろ対処しておりますが、今回運輸省において県と相談して汐入川と湊川に水の流れやすいように、わるい水を沖のほうに出すように堤防をつくって流れやすいようにしようという計画と。それから砂地をさらに五〇メートルぐらい広げて砂地を多くしよう。それから海岸地帯をもっと公園化して観光客がゆくり楽しめる場所としようというようなことで二、三回運輸省、県、市が立ちよっていろいろ話したわけでございますが、いずれにしても、これは漁業組合の方々、地元の方々の理解と協力がなければなかなかできないわけです。

ヨットハーバーも西岬のほうにつくることで何回もやっただけですが、やはり漁業組合等のことでできなくなったようなこともありますし、船形の海岸の埋め立てについても地元の方々の反対でできなかったわけでございますが、それは私どもの力が足らなかった点もありましようが、やはりこの問題も、これは費用は全額約三億



を県と国が出して、つまりりっぱな海水浴場とする。こういうような構想でございますので、私どもは大いに期待をしておるわけでございますが、いずれにしましても、漁業組合とか、地元関係者とこれから話し合いを進めて少なくとも三月いっぱいぐらいまでに進めてもらいたいという要望でございますので、これからやってみようと思います。

また、汐入川の汚染については、もう三、四年前から塩素・細菌で消毒してありますが、あそこの水はきれいですが、さらにどんどん川、船形のあそこにもそういう施設をしています。今、おおせの湊川もそういうものをやれば一番いいじゃないかと思ひます。これについても検討を加えてまいりたいと存じます。

いずれにしても、海を観光資源とする館山にとりましては、大きくこれは考えて対処しなければならぬと私は考えておる次第でございます。

それから、し尿処理場の公害についての御質問でございますが、し尿処理場はもうできてから十一、二年たつわけでございまして、相当耐用年限も近くなったと思いますが、おおせのようにガス漏れ等もあるわけです。

それからまた、希薄の水が少ないために色のついたにおいのするような水を流して漁業会なんかに迷惑をかけておることも承知しておるわけでございますが、これにつきましては巴川ですか、あそここの付近にあの水を利用して、あそこで希薄して定められた濃度によって流そうというようにして現在これは検討中で、来年度は優先してこれはやろうと考えておるんですが、それからガス漏れ等につきましても、これは専門家に調べさして、従業員

にそういう中毒症を起こすことのないようにこれは対処したいと考えておる次第でございます。そのように御了承願いたいと思ひます。

広域市町村圏のし尿処理場は、現在議員の方々にも御心配を願っておりますが、竹原地区、丸山から三芳地区にまたがるところで建設しようということに広域市町村圏の会議では内定をしておるわけでございますが、これがなかなか住民の、丸山さんの方はよろしいようですが、館山地区の竹原さんのほうも、三芳のほうも大体反対というような空気があるわけでございまして、その間二回ぐらい深谷などの先進地を視察に行ったりなんかして認識を深めておるわけでございますが、これはなかなか問題が問題ですから、やっぱり住民の方々の理解を得なければ強行するわけにいかないわけですが、これを推進してぜひあそこに設置したい。あそこができて、つまりあそこでは各町村の現在の施設よりはい出たものをあそこでやる。こういう考え方でございますから、あそこができて、ここのほうはなくなるというわけではないわけでございますから、御了承願いたいと思ひます。

〇一〇番（渡辺軍治郎君） 再質問いたしますが、先ほど流山議員の質問に対して物価指数が四十五年がどうの、こののといろいろ長いような答弁があったんですが、質問の時間が三十分に限られていますから、質問の要点にしぼって回答願いたいと思ひます。ただいま、市長さんの答弁で一番問題になるのは、館山市でもスーパーや大口取り扱い店の問題なんです。物価一般として私が質問しているのではなくて、最近のインフレの上昇の中でこういう問題が起きているわけですから、それに対する対処のしかた



として質問しているんだから、その点は焦点を当てて答弁願いたいと思うんです。

市長さんの考えでは調査の権限がない。こういわれますが、これは物価対策審議会ですか、物価問題審議会ですか、そういうところの今までの活動を見ますと、これは懇談会程度の活動になっていると思うんです。これが対策委員会に改組してもっと積極的に物価問題に取り組めるような、そういうことである程度の権限も持たせるような、そういうものをつくらなければ、市長さんのいうような在庫の調査とか、荷受けの実態を確保する。それを点検するとか、仕入れ価額や売り上げ価額の問題をある程度見せてもらうとか、帳簿になると思いますが、そういうようなことは良心的な商人ならば館山でもやると思うんです。それぐらいの協力は、市がやろうとすればできると思うんです。頭から権限がない。そういうようなことでやろうとしない。そういう考え方がはっきり答弁の中にあらわれていると思うんです。

市が回覧板を回わした内容を見ますと、そういう物価をつり上げるようなことがあったら市に情報を提供してくださいと。それから売り惜しみとか、買い占めとかの事実があったら報告してください。それを関係機関に通報します。報告します。それだけです。あとは、消費の節約を訴えているだけです。

こういうことで、市民の一番問題の物価の高騰を市としておさえたいと、全国的なことでありますけれども、市としてもやる考えがあればできないはずはないと思うんです。そこらの点をひとつ明らかにしてもらいたいと思います。

これは市長さんの話では、そういういいまいったような問題があ

れば情報をキャッチして国や県を通じて。こういうような答弁であります、こういう消極的な立場ではなしに、もっとはっきりした態度でのぞんでももらいたいと思う。

一例をあげますと、これはスーパーの広告です。これは十一月二十九日に出された広告ですが「ちり紙、石けん品不足の時代到来、業界大混乱、早目に確保が賢明です。」こういう広告を出しているんです。これはパニック状態が終ったあとなんです。十一月二十九日ですから、終ったあとでもこういう品不足を宣伝して業界が大混乱したから早く買いなさい。要するに買い急ぎを促進するような宣伝をやっている。

こういうことについては、やっぱり市にそういう物価問題協議会があれば、こういう問題は取り上げて業者に対してこういう市民の不安をおおるような宣伝はどうかと思うから、おやめになってくださいと。一番問題になるのはこのスーパーなんです。お昼前三百円のが午後になつたら同じ品物が四百五十円で、買う人が店主に抗議をしたら、高ければ買うなという、こういう暴言をはいておる。こういう実態があるわけですから、そういうものを市が知らぬでいるというようなことでは、情報キャッチを待つのではないしに、そういう問題が起こったときに積極的に調査する必要があるし、その上でなければ手が打てないと思う。

そういう点に対しては、市長さんの答弁では非常に不満足な御答弁です。したがって、市長さんは物価問題協議会が機能を果たしているから、これは改組する必要はない。こういうようなことで、実際にやっている事実から見れば、物価安定させるための機能を果たしているとは思われません。市が回覧板を出したそうい



うような点から見ても、これは物価問題協議会が真剣に取り組んでいるとは考えられないような内容のものです。

それからもう一点、私がここでもって問題にしているのは国の問題ですが、当然今、大資本が買い占めや売り惜しみをしているのが今日の物価高騰をまねいているわけですから、またそういう問題と関連して今、農家の方がビニールや重油がなくて、ビニールハウスがもうやっていけないというところに追い込まれているわけです。こういう必要な品を確保することです。農業経営に必要な品を確保すると同時に、市民の生活必需品についてはこれは生産を確保してそうして今いったような安定した価額で流通過程を通じて手に入るような、そういうことは市でやろうとしてもできないことです。

当然、そういう事態が起こっているとすれば、市としても中央の行政官庁に対して意見書を出すというような責任はあると思うんです。そういう点について市長さんの回答では満足できませんので、再質問します。

○商工観光課長（鈴木 力君） 答えを申し上げます。

生活関連物資の品不足あるいは価格の高騰に対しまして、市といたしましては、先ほど市長からお答え申し上げましたとおり、法的には調査あるいは立入り検査あるいは勧告、公表これらについての権限は全くない。これは都道府県におきましても現在ないというところでございますが、ただ、大きな行政指導という立場から考えましたときに、市民の皆さんが非常に品がなくて困っていますとか、あるいは価格が急騰したというようなことで、これにつきましてもやはり業者の皆さまにお願いというようにすることで、品

不足に対しましてはできる限りメーカー、卸売り店のほうから回わしてもらいたい。あるいはルートとしましては、県に通報しまして県から通産省、通産省からメーカーあるいは問屋、小売り店このように品を送る。こういうふうになっておりますが、直接的にもできる限り市内業者の方にお願いの形でもってやってもらうという考え方を持っております。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 私が聞いているのは、これは確かに立入り調査というように権限は公正取引委員会ではできない。そういうことはわかっております。

市としても業者と協力するような立場で、在庫がどのぐらいありますとか、在庫がなければやっぱり困りますよ。そういう在庫を確保するためにどういう考えですかとか、仕入れ価額と売り上げ価額との差額がどのぐらいあるか。これはマージンの関係になりますから、業者としてはあれですが、大体のそれぐらいのこととはつかんで、行政指導もただ回覧板を回わすようなああいっただような内容での行政指導では、とてもじゃないけれども行政指導とはいわれないと思うんです。

だから、そういう点は、できるだけ業者に対して強制的にどうこうということではなくて、悪徳なそういうことがあったら何らかの形で公表するようなことを、そういうことになれば市民は判断してその店からは買わないというような、要するにポイコットするような市民運動だっけ起こると思うんです。だから、不当なことがあったら公表するぐらいのことではできないか。

そういうようなことをやっていくためにも物価問題審議会をも少し権威のあるものにして、今の行政に対応できるように対策



委員会ですか。そういうものにしたらどうかということをいって  
るわけですから、その点は考えてもらいたいと思いますが、どう  
ですか。

もう一つは、国や県に情報を報告して協力を求めるというよう  
なそういうことを私は聞いておるのではなしに、地方団体として  
当然一般市民の困っている今のような問題については意見書を出  
すぐらいのことは、これは地方自治法に基づいてできるんではな  
いかというようなことでお尋ねするわけですが、その点。

○商工観光課長（鈴木 力君） 今後、物価問題協議会に對しまし  
ても、極力この問題を取り上げていただくというようなことでお  
願いをしたい。このように考えております。

それからなお、地方自治体として上部団体県あるいは国に對し  
て意見書を提出するということでございますが、これらにつきま  
しては、今後十分検討してまいりたいと考えております。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 市の例は、私の出した三つの問題に對  
してはっきりやるというように回答は出ていません。これから  
協議してやりますとか、いつも答弁では協議してやるとか、そう  
いうようなことでそのままになっちゃうんです。

事態の重要性から見れば、寝られないような問題ですから、こ  
ういふ問題についてとにかく意見書を、これぐらいのことはここ  
で出せるという回答はできると思うんですよ。自治体が中央の官  
庁に今困っている問題について対処してもらいたいというような  
意見書を出さないで、これは自治体とはいわれないじゃないです  
か。

そういうことができると思うのに、そういう点で非常に消極的

な回答しか得られないわけですが、市長さんは、この自治体が今  
市民の困っている問題についてこうしてもらいたい。こういうよ  
うな意見書の提出はできないと考えているのか。はっきりした答  
弁をいただきたいと思います。

○市長（本間 謙君） 今の意見書の問題でございますが、業者に  
話し合っただうしても物価を上げていくというようなことでいく  
ならば、私は意見書を出そうと思います。

その前に、業者を集めてそういうことのないように一応話をし  
て、それでもなおかつやるということであれば意見書を出します。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 私が聞いているのは、業者を集めてど  
うこうということじゃなくて、悪性インフレがどんどん進んでい  
るわけです。パニック状態は一応終ったけれども、今後発生す  
るおそれがある。石油危機という問題がありますから、生産が制  
限されたり、割り当てとかいろいろの問題が起こってくる。この  
不安は将来に続いていく問題ですから、そういう不安が起こらな  
いように、市としても国に對してそういう問題が起こらないよう  
に意見書を出す。それぐらいのことは今の事態から見れば自治体  
としても当然やるべきだと思ふ。

その点をいっておるので、業者を集めてどうこうということじ  
ゃありませんから、今の情勢から見てもそういう必要があるという  
ことで意見書出すということですから、その点はき違えないよう  
に、業者の意見を聞いてどうこうという問題ではありません。そ  
の点ははっきりしてもらいたいと思います。

時間がありませんから次に移ります。

水害防止の問題についてですが、これはたびたび議会で問題に



されているわけですよ。ところが、毎年繰り返して同じようなところに水害が発生しているわけです。

そういう点から見ると、水害に対する排水路の整備とかそういうようなものがテンポが遅いわけです。やるにしても次々延ばされてそのために水害が起こる。こういうようなことから見て、一体市民の立場に立った政治をやっているのかどうか。市民の困っている問題、一番困っているような問題に手が打てないというようなことでは困るわけです。

そういう点で、水害問題に対する軽視といえますか、重要性これはいそいでやらなければならぬ問題だと思ふんです。市の仕事としてはいろいろたくさんありますが、今、早急にやらなければならぬ問題と、先に延ばしてもいいような問題があると思ふんです。早急にやらなければならぬという問題について、考え方がそういう立場に立っていないんじゃないかということを非常に強く考えるわけです。

これはただ、市の問題だけじゃなしに、宮城の豊津橋の問題についてもこれは非常に大きな問題がありますが、一月八日に地方事務所から撤去命令が出ているわけです。豊津橋にヒューム管で川を狭めたところに。ところが、会社から少し延ばしてくれというような陳情書があって、そのまま手を打てないんですが、この前の議會のときに君塚君の質問の中でもはっきりしています。ワイルドと石井博の名前で誓約書が入っているわけです。ワイルドは倒産して資金がない。そういうようなことが一つの問題になるかもしれないけれども、連帯をもって指示があればすぐに撤去するというようなそういう誓約書が入っているわけですから、

一月八日に撤去の通告がいつているのに、地元の者がいくと二千万持ってこいと、こんなこともいつているらしいんですが、当然もう期限が切れている。一部六〇メートルぐらいのヒューム管については県が許可しているわけですが、許可期限がもう切れているわけです。十一月十九日には県のほうから再度撤去命令が出てくるわけなんです。ですから、これをこのままにしておきますと、来年の九月また集中豪雨があれば、あそこでまた水がはんらんする。そういうようなことになっているわけです。

それから、田中橋にしても、昭和四十二年頃から地元の人たちが県に対して国道ができるときに、国道ができたら排水がたまって洪水状態が起こるからということで問題になっているところです。

こういうのがそのまま県の仕事だからといって放置されていたんでは被害を受けるのは市民ですから、当然これは市のほうから県のほうに嚴重にそういう被害を取り除くために積極的に改良工事をやるようなそういうことをやらないと思ふんです、やらないから今日までそのまま放任されているんで、こういう点についてもこれは市の土木課関係でないからということでなしに、県のほうに嚴重にやって処置してもらいたい。

それから、中央排水路の橋脚については三月まで、県は三百人ぐらいのまだ利用者があるので、下のほうを取り除く改良工事をやることになっているらしいんですが、これらの促進とか、おもに県の関係することですが、市がもっと県のほうに積極的にやるように働きかけをやってもらいたいと思いますが、そういう点をどう考えておるのか。



それからもう一つ、水害防止で排水で一番問題になるのは中央排水路のむしろ北側です。大千葉から湊川に行くようなあいうところに水が集中しないようにやることを土木課長は勾配の關係でなかなか湊川の水位との關係で非常にむずかしい問題だといふうなことをいっておりますが、むずかしいからといってそのまま放置すればいつまでたってもできないことで、何とか一カ所に水が集中しないように、そういうことを積極的に行う考えがあるかどうか。そのへんひとつ伺いたいと思います。

○土木課長（飯田治男君） 豊津橋付近の排水の問題につきましては、昨日土木事務所の管理課長のほうから電話がございまして、官城の区長さんはじめ今度の被害にあわれた方たちが県の土木事務所の所長に五日の日に請願書を持っていかれたそうです。

土木事務所の所長さんの話では、とにかく先ほど渡辺議員さんのいわれましたように、一月に不法占拠している部分については撤去命令を出した。ところが、あと六〇メートルの分については昨年八月ですか、占用期間が切れております。その後更新もしてないということで、土木としても撤去させるということをはっきり地元の方にいわれたそうです。

それから、田中タイヤのところの橋脚の問題については、私としても再三土木事務所のほうに話をしております。また、交通課長のほうからも土木事務所のほうに再三その問題につきましましては所長並びに課長のほうに話を持っていはあります。

土木の話では、最初横断橋をつくりました業者に下部の構造を変更するように設計を頼んだところが、なかなかむずかしい問題だということで設計を断られたということなんです。現在は、

川鉄の關係の会社に設計を依頼してあるそうです。その設計がまとまり次第、本年度中に橋脚の改造をやるように計画しております。

稲の一二八号線の關係でございしますが、これも土木事務所で先般国道の改修をやったときに、結局今までが田んぼへ水路の水が落ちておったのが国道を新しく造成したために、水のはけ場所がなくなつてあの間に水がたまるということで今土木事務所のほうでも検討しておるそうです。

それから、湊川に行く水路につきましては、西部の構造改善で一応断面は上幅は約二メートル、深さが一メートル五〇くらい水路の計画を中に挿入されております。その水路は八幡と湊のちようど境にあります小安神社の道路のところまでが西部地区の構造改善で実施することになっております。その下流につきましては、私どものほうで来年度予算要求をいたしてございます。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 時間がありませんので、今の排水路については、これは耕地整理と合わせてということで前からのあれになつておりますが、大千葉のところのことをいっておるわけですから。中央公園から南のほうに集中するので、中央公園から北側のほうに排水がはける問題について、この問題について検討してもらいたいと思います。

それから、田中橋、国道の問題については検討中だといいますが、あそこはそのままにしておいたらいへんなことです。から、積極的にやるように市のほうでも進めてもらいたいと思います。

それから、海水浴場の問題ですが、回答では堤防を汐入川や湊川に積み出してどろが先のほうに出るような問題がありますが、



これは潮流等の関係でわずかしいと思いますが、少なくとも今、湊川の河口に相当大きな砂丘になっておる。あの砂丘を取ってその砂を海岸のほうに移せば、それだけでもかなり役に立つと思うんです。

だから、堤防を出すというようなことは潮流の関係、漁民等の関係かなりいろいろな問題がありますから、すぐにはできないかもしれませんが、湊川の河口をさらってそれを移すというところはやろうとすればすぐできることです。その点ぜひやってもらいたい。砂を鰯から運んで海岸を要するにきれいな砂浜として造成していくということですが、予算措置がまだ国や県との関係があるからできないと思いますが、それくらいのことだったら市として予算を組んで、車でもってあそこへ何ばいのかの砂を少ないところに入れるとか、そういうような造浜事業といえますか、そういうようなものはやろうとすればできることなんです。

ただ、一年でできないということならば、年次計画を組んで今年こまでやる。来年はこまでやる。再来年はこうだという三カ年間の年次計画を組んで取り組むようなことをやらなければ、いつになっても延ばされて結局はやらないことになります。

市の予算を使うことですから、一度にそこに使えないということとならば、年次計画でそういう予算化していくということが必要だと思ひます。予算が伴わなければいつになってもできませんから、そういう点ができるか、できないか。ひとつ検討してもらいたい。

それから、さっき回答では、あそこは大ぜいの海水浴客が入るため海岸が一〇〇メートルぐらいすぐにある。海水浴にとってき

れいな水ということは生命線ですから、海底にヘドロや不純物がしずんでいるわけです。それが、人が入れればひっかき回すからにどった中で泳いでいる。一番海水浴にとっては致命的な問題ですから、ヘドロの除去とか、海底に沈んでいるものを何らかとか、浮遊しているものでなく、下にしずんでいるものを何らかの形で浄化するというのをやらなかったら海水浴場になりませんから、そういう点を予算化してやるように、時間がないから要望しておきます。

そのことについて、市長さんの回答がさっきありませんでした。公園として造成するということはけつこうですが、まず第一に砂を入れてその砂が飛散しないように、グリーンベルトの間が相当広く、この議場ぐらい広くあいている。そこからみんな砂がこの二、三日のような風で海岸から吹きつけられて、側溝が詰まっておる。いくら掃除してもすぐつまっちゃう。砂が飛散しないようにグリーンベルトをもっと縮めて車が一台入るぐらいにするとか、砂防がある程度網を張るとかなんとかして砂を飛散しないようにすることが必要だと思ひます。

いずれにしても、金のかかることです。今、予算時期に入っていますから、やろうとすれば、そういうところに予算化をお願いしたい。この問題は、決算委員会等もありますから、時間がないからそういうところで追及したいと思ひます。

し尿処理場の問題ですが、この問題は、決算委員会そういう中で時間があるませんので、そのときに問題にしたいと思ひます。

時間がなから打ち切ります。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、渡辺軍治郎君の質問を終ります。



午前の会議はこれにて休憩とし、午後十二時三十分開会といえます。

午前十一時四十分 休 憩

午後 零時三十分 再 開

議長（吉田勇治郎君） 午後の出席議員約二十一名、休憩前に引き続き会議を開きます。

辻田 実君御登壇願います。

（九番議員辻田 実君登壇）

〇九番（辻田 実君） 御質問を申し上げます。

インフレと異常な物価騰貴に見舞われた本年の歳末は、物資の不足と相まって国民にこれまでに見られない不安と日常生活に圧迫を加えております。

安房地区労働組合は、労働者の生活を守るために本年はじめてインフレ手当を要求し、傘下の組合五千三百名の組合員は、平均二十五万円近くのボーナスを獲得することができました。この額は昨年より三〇%の増額であります。支払う方もたいへんかもわかりません。

しかし、物価の上昇は異常で、日常生活必需品などはこの一ヵ月ぐらいの間で二倍を越したものが数品目もございます。経済学では貨幣と商品のバランスがくずれて貨幣価値がなくなることインフレといえます。インフレになれば、一般的に商品を生産する人がまた商品売る商人が有利になるのが原則です。しかし現在、品物を生産する資源がなくなり、商品がなくなっているの、生産者も商人も万歳の状況でございます。

こうした中で、日本銀行は金融を引き締めてインフレを防止し

ようとしております。この一年間に三度の法定利息の引き上げを行ないながら金融を引き締めておるわけでございます。

先般、館山商工会議所の講演で、自由民主党の政調会長になられた郷土選出の代議士水田三喜男先生は、この程度の金融引き締めでは悪性のインフレをストップすることはとうていできない。それほど現在のインフレは深刻なものであるということを強調せられておられたそうでございます。

現在、勤労者が住宅を建てるのにローンを申し込んでも貸してくれません。中小企業者が県の制度資金であるところの年末融資を銀行に申し込んでも金がないということではほとんど貸し出してくれないではありません。大蔵大臣には福田さんがなりました。これ以上金融事情がわるくなれば、政府の金融政策でインフレがストップする頃には市内の中小企業者は金融によって軒並みに倒産してしまいます。

本間市長さんも商工会議所の会頭、信用金庫の理事長をなされた方でございます。その状況はよくおわかりのことと存じあげます。早急に年末融資対策を立て、市内の中小企業、勤労者の住宅等の融資資金の確保、そして融資が円滑に受けられるように行政指導すべく決断をする意向はないか、お伺いをしたいところでございます。

次に、本年度も残り少なくなりました。そうして現在、来年度の予算編成のまっ最中でございます。そこで、来年度の予算についてお伺いをいたしたいわけでございます。

来年は、日本経済の大きな転換の時期であると思えます。

本間市政三期十二年目の締めくくりの大切な年でもあります。生



活優先の新しい政治の流れに乗ることができるかどうか。また本間市政の福祉と文化の充実した都市建設に花を咲かせることができるかどうか。まさに新年度の予算の内容にかかっておるもの、私は信ずるものでございます。

そこで、四十九年度の財政見通しについてお伺いをいたしたいのでございます。来年度は不況、インフレの中で法人税の収入の減が非常に顕著にあらわれてくるものと思われれます。そうした中において予算規模はどの程度に見込めることができるか。まずもって冒頭にお伺いしたいのでございます。

また、資材不足とインフレで公共事業を繰り延べするところの市町村が続出しております。館山市ではどのような方針で公共事業に対するとお伺いしたいのでございます。

それから、そのおもな内容であるところでありますところの館山市の小学校の改築についてはどのようにお考えでありますか。現在、改築が迫られておりますところの富崎小、西岬小、那古小、館野小、九重小、神余小中、館山一、二中などがありますが、これらの改築に対するとお伺いしたいのでございます。

また、館山市のごみ処理場は境界線を越え、ごみ戦争に入ろうとしております。し尿処理場はすでに公害を出しております。下水道の不備は、少し雨が強く降ると、水害を各所に出しております。総合グラウンドの建設は三年前の市長選挙の公約であります。が、いまだに建設に着手されておりません。

これらのことは、来年度の予算に計上されるのでしょうか。そ

の見通しをお伺いしたいと思っております。

若潮国体はすばらしい成果でありました。特に、館山市で開催された柔道、剣道は、その内容においても地元選手の活躍と成績は国体史上最高のものでございまして、六月議会で柔剣道だけの武道館は考えていないとの答弁がありました。国体を通じて柔道、剣道の今後への継続的發展のために柔道場、剣道場の考えを新たにされないかどうか。その点はどうに考えておるのか。多くの市民の願いでございますので、この点についてお伺いをするとお伺いいたします。

次に、ランドセルをこの四月から廃止いたしました。三月議会では私が質問しましたが、ランドセルの廃止のその後の成果はどのようなになったのか、具体的に明らかにしてもらいたいと思っております。そうして来年四月に小学校に入学する生徒にはどのようにしていくのか。今、非常に父兄の方たちも心配されておるわけでございますので、この点について市の来年度の方針をお伺いしたいと思っております。

また、現在一年生が来年度二年になるわけでございますけれども、この生徒の家庭学習、復習、予習をどのようにされていくのか、お尋ねしたいと思っております。一年生ときは宿題を出さないということであったわけでございますけれども、二年生以降はどうなるのか。この点についてお伺いしたいと思っております。

次に、館山市の開発計画と土地政策について御質問をいたします。館山市の人口は国勢調査によりますと五万五千二百三十六名で一万四千六百八十五世帯が一〇九キロヘーベに散在しており



ます。面積に対する地目の割合は宅地が六キロヘーベ、山林二五キロヘーベ、農地二八キロヘーベ、その他道路、雑種地等が五〇キロヘーベとなっております。

この数字を見ると一目瞭然として、人口に対して土地が狭く、農地も全体の二五%を占める現況であって、気候、立地条件から農業、漁業を産業の中心とした観光都市としてはいかにも土地の狭さが目立つのであります。

それにもかかわらず、農地の転用は四十三年以来の五年間で六一、五〇〇アールにも達しておるのでございます。今日の世界経済の現況を見ると、石油と農産物の不足が急を上げておるところでございます。

観光で生きようとする館山が農業を粗末にして経済が成り立ちません。観光は農業と漁業を結びつけてこそもっとも大きな経済効果を生むからでございます。

そこで、農地の転用規制を強化する意向はないでしょうか。また、前の議会で指摘した職権転用についても自粛傾向がほとんど見られません。これはどうしたことなのでしょう。答弁と現実と非常に違い過ぎます。六月以降の職権転用によるところの現況を具体的に数字で示していただきたいと思っております。

また、ここ数年国有地の払い下げが非常に目立ちます。国の財政方針として売却できるものは売却していく方針のようですが、館山市の払い下げた国有地や、農地や、住宅に困っている人や、公共用地に使用されるものより、私有財産をこやすことや、転売して利益をあげるために利用されている点が非常に多いように見受けられますが、この点についてはどのようにお考えになってい

るのか、お伺いをしたいわけでございます。

次に、暴力追放についてお伺いをいたしたいと思います。

一昨日のこの議場において暴力追放決議を議員提案の決議案として採決をいたしました。本間市長は、この決議案をどのように具体化していく決意なのか。所信をお聞かせ願いたいと思うのでございます。

六月議会で、私は渚銀座の暴力行為について質問し、暴力追放の都市宣言をするように要望しました。そうして市長は、いかなる暴力も民主主義社会では追放しなければならないので、意向にそって万全を期することを胸を張って答弁されたところでございます。しかしながら、不幸なことに質問直後数日で暴力団のなぐり込み未遂があり全国に報道されました。そうして十一月初めには、とうとう暴力団のビストル乱射事件が発生してしまったのでございます。

市長さんは、市長であると同時に防犯協力会の会長でございます。輝かしい成果の夏季団体では連日選手が盗難にあらうという不祥事を起こしてしまいました。団体選手が盗難にあったということは、団体史上ほとんどその例をみなかったところの最悪の不祥事であつたわけでございます。

その上、続いて十月には、相の浜の干場が日本犯罪史上全く例をみない残酷さで女性を殺し、日本じゅうの人々の心を本当に寒からしめたところでございます。そうして十一月の渚の暴力事件のビストル殺人事件でございます。

私は、防犯協力会長としてこの点についてどのように考えておられるのか、お伺いしたいのでございます。出処進退は政治家の節度



でございます。政治家の決断の誤まりは社会が乱れます。防犯協力会の会長は直ちに辞退をするともに、組織の再編をしていただくということを私はここに訴えるものでございます。

輝かしい館山市の名市長であり、天下に名声をとどろかせるところの本間 譲の名を私は惜しむからでございます。

以上、御答弁をお願いいたしまして質問を終わります。

(市長本間 譲君登壇)

○市長(本間 譲君) 辻田議員さんの御質問に対しましてお答えをいたしたいと思います。

第一に、中小企業の年末資金対策でございますが、たいへん將來を見越して御心配なさっているところに対しては、私は敬意を表したいと思えます。今までの間においては、金融に非常に困ったというようなことは、市のほうにはまだ申し出がございません。

今の金融引き締めは大体大きな土地を買うとかなんとか、そういう多額のなものに対する引き締めであって、館山くんだりの一千万以下のものに対する金融の圧迫は私はないものと思ひまして、金融機関もそういうことで考えておると思いますが、いずれにしても、現在、制度金融としましては預託金融、これは八千万円まではこの保証つきでやれることには現在なっておりますが、現在貸してある金は四千万ぐらいですか。今、申し出が七百万ぐらいありますが、まだここにも余裕があるし、中小金融公庫が誘致してあります。そういうものを利用するのが一番近道であるしまたそういう小さい、零細な方々に対しての金融の引き締めは私はないし、またそうあっちゃいけないと思ひまして、市のほうでもそういうことのないように金融機関にお願いをしておるわけで

ございます。そういう金融で困っておるような方がございましたら、市のほうに申し出をしていただければあっせんをいたしたいと考えております。

それから、四十九年度の予算編成でございますが、おおせのようになかなかたいへんなことであろうかと思いますが、何といつても国の予算編成がまだできておらないこと。それから経済の見通しもはっきりしない。地方税法の改正もまだなされておらない。こういうようなわけでございまして、いずれの市町村においても本年は予算編成がそういう関係でこれは今までのような速度ではない。それらがはっきりしなければ予算編成が取りつかれないじゃないかと思ひますが、法人税についての御質問もございしますが、これはやはり減税等が大幅にあることになれば、これは違つてきますけれども、現時点においては法人税は館山は大したことはないじゃないかと、心配することはないと私は考えております。

それですから、もう少し政府の予算編成、税法の改正等を見ながら予算の編成をいたしたいと思ひますが、なかなかめんどろなことがあろうかと考えます。

それから、学校建築につきましては、御案内のように防衛庁の助成をもって現在は二中は一昨日御了承いただいたし、それから一中の改築です。これを来年度、一中のほうはやはり防衛庁の関係ですから、やはり三年ぐらいかかると思ひますが、その次順次那古小あたりから財政とにらみ合わせまして老朽の順を追ってやっていきたい。ここでどこをいつやるというようなことは、私のほうではまだそれを立ててございませんが、のちほどこれは教



育長のほうから教育委員会の考え方を申し上げて、それで御了承をいただきたいと存じます。

ランドセル廃止後のことも教育長のほうで答弁を願いたいと存じます。

それから、ごみ処理場とか、総合グラウンドとか、水道整備とかいろいろの問題がございますけれども、これもやはりいろいろ検討はしていますけれども、政府の予算と税制改正等によって変化してくると思います。ごみ処理場は一〇トン増す施設を、現在の施設は四〇トンですから、もう一〇トンやれますから、その施設をすべく、それは検討を進めてその方法ができればやってまいりたいと考えております。

し尿処理場については、先ほど渡辺議員に申し上げたようなことでございますが、今、広域市町村圏で計画を進めておるようなわけです。

それから、総合グラウンドについては、おそらく来年度は設計程度でもって着手はまだできないと思いますけれども、これも地所は、私はいろいろ御意見もありましたけれども、いいとき買取したと私としては考えておりますが、来年度早速やるというようなことではまだないわけでございます。

下水道については、これは五十一年度ですか。これが建設省の計画にのせて交渉を進めますから、来年はこれけやらない。調査というようになるかと思いますが。

それからもう一点、柔剣道場の建設については、私は市民の健康の増進というのはやはりスポーツにあると考えて、スポーツとか、体操とか、レクリエーションとかいろんな面でからだを鍛え

ることが何ものにも優先すべきと考えておりますが、柔剣道場については前にも申し上げましたように、来年度やるというようなことはちょっとできないと思いますが、とにかく近き将来にはこれは必要であって建設すべきだ。こういうふうに考えておるわけでございます。

開発と土地対策ですが、これは農振法によって規制されたところはこれは動かすことができない、その他の農地については市いろいろな施策のものはそれによって農地を譲り受け、その他はなるべくお説のように農地は農地としていくことに進めたいと考えておる次第でございます。

それから、国有地の関係、払い下げ関係でございますが、これは戦争当時提供した地主に払い下げるといふ基本方針でやっておるものと私は考えておりますが、もしそうでないということがあれば、これはたいへんなことじゃないかと思いますが、そういうことで考えております。

それから、農地転用というのは、農地を荒れ地に変更するといふことについてこの前も議会で御質問があったそうですが、これは農地委員会と法務局ですか、相談して結局農地委員会に照会して農地委員会が調査して適当であるものを転用というような話し合いを九月だか持たれておるそうですが、今までのようにむやみに農地を荒蕪地にするようなことは今後はないと思います。その数字的についてはまたあとで課長から申し上げたいと存じます。

それから、暴力追放についてでございますが、まことに平和な観光地として発展をとおるときに、暴力がはびこるといふことはまことに残念であるわけでございますが、これにつきまして



は、警察のほうでも極力それを取り締まってそういうことのないようにしてもらいたいということはお願いしてあるわけでございますが、これは暴力がはびこるということは、いわゆる競輪、競馬のノミ行為を資金としておるんです。このノミ行為をやらなくなければ暴力団というものは住みづらいという土地になるんではないか。警察署長の言ですが、私もそうだと思いますが、住民の方々がよくそれをわきまえていただくことがきわめて重要じゃないかと思いますが、防犯協会においてもこの問題を取り上げてこの間警察でいろいろ打ち合わせしたんですが、どうしても被害にあった人は小さいことでも警察にすぐ通報してもらおう。やるとあとで仕返しをされるからなんていうこともあるだろうが、そういうことはさせないし、そういうことがわからないと困るからというようなことでございましたが、防犯協会の皆さまもいろいろ認識されまして、いろいろの注意を受けましたから、その線で対処していくわけでございますが、この十月からですか、防犯協力員を五十何名かふやしまして、そうして住民にノミ行為やなんかやらないように、被害を受けたらすぐ届出するようになっていくことを住民の方々に呼びかけていくことになっております。これはまた機会を見て拡大していろいろやっていかなくちやならぬと思います。

とにかく、館山は暴力団の住みよい場所だ。こういってあるということは警察で聞いたんですが、非常に千人ぐらいあるそうですね。ノミ行為をやっている人が。ですから相当資金源にはなると思いますが、これはやはり皆さんの力でこういうことをよく認識をしてもらっていくことがまず私は大事じゃないか。これはもち

ろん人ごとじゃないし、お互いのことでございますので、この事態をよく認識してもらうことがきわめて重要なことと思いますが、そういう線にそって今後も住民に認識をしてもらうことにつとめて、暴力団の住みにくい館山にすることが明るい館山市づくりになるうかと思いますが、そういう点で御了承をいただきたいと存じます。

(教育長安田豊作君登壇)

〇教育長(安田豊作君) 第一に、学校改築問題について補足したいと思います。

今、市長から答弁のあったとおりでありまして、これから先は委員会案ということになるかとも思いますが、来年度は引き続き二中の改築と一中の第一期工事並びに館山小学校の講堂の設計、これとともに防音校舎としての仕事でございまして、小学校の改築をどうするかというお尋ねでございしますが、小学校を見渡したところ、那古小学校が九三%の危険率で最高であります。その関係で来年度できれば設計をお願いしたい。

この場合、防音校舎として防衛庁のほうで認められるか、あるいは文部省の補助金によらなければいけないか。今のところ両方に対して運動中でございますけれども、四十九年度に設計をお願いしたいわけでございます。

そうなりますと、自然に五十年度は館山小学校の講堂の建築、二中の建築、一中の建築、続けていけば那古小学校の建築ということになります。

五十一年度になりますと、その引き続きの一中の第三期工事と那古小学校の建築が続くわけになりますけれども、何としてもそ



の頃には統合中学校を考えないとあとの建築計画がたたないわけでございます。そういう関係で統合中学校を五十一年頃から考えていかなければならぬんじゃないか。こういうことになりました、それから先の計画については私のほうでもまだ検討中でございます。

ちなみに、危険度のことについて申し上げますと、那古小学校の次が神余小学校が八九%、東小学校が七九%、館野小学校が四九%、九重小学校が二〇%、富崎小学校が四%ということになります。これは子供が減ってきておりますので、現在ある建物の中で今の子供が使える範囲内における面積の危険度でございます。ですから、今ある建物の危険分を除いて現在の子供が勉強するに足りない分の危険度教でございますので、そういうことになっておりますので、お答え申し上げます。

それから、ランドセル廃止の問題というのですが、本年度から学用品を学校に常置するということを奨励して九カ月になりました。今年度は小学校の一年生だけ実施したわけでございますが、今までに学校及び保護者に対して共通理解を得るために、私たちはいろいろの指導や話し合いをしてきました。いろいろな会合あるいは有線テレビを利用したり、あるいはPTAの会合あるいはしおりの作成そういうことを通して、いろいろとその施策の実施をしてきたわけでございますが、ここに来て一時混乱といえますか、不安という時代の時代もあったようでございますけれども、定着し、安定したというように私たちは認識しておるわけでございます。

その成果はと、こういうことでございますが、三つの立場から

申し上げてみたいと思います。

一つは、親でございますが、親の考え方が変わった。それは子供を見る目が変わったわけでございます。親の立場から子供を見るという立場から子供の側に立って子供を見る。あるいは形式的な見方から実質的な見方にか変わった。俗なことでいえば、なまの子供も見るといふふうな見方にか変わったわけでございます。

と同時に、勉強に対する考え方も、子供が机の前に坐わっていることだけ。あるいは教科書を見ていることだけが勉強なんだということではないんだということにだんだん気づいてきておるようになってございます。そうして遊びが、子供の遊びというものが、あるいは子供の活動とか行動とかいうものが勉強のもとになっているんだ。学習の基礎になっているんだということがわかってきたように、子どもは報告や話し合いを通じてつかんでおるわけでございます。

二番目に、教師の立場から、教師のいうことを聞きますと、第一番に教えやすくなったということをもみんな受持ちの先生方はいっております。それは教室において教師の指導に子供がすいついてくるという姿が多くなってきたということでございます。

二番目に、学習時間に子供が考えるようになってきたと。一つ例を申し上げますと五足す七は十二という一けたの繰り上りのある足し算の指導の際、五足す七はという話をすると、子供は十二とおおむ返しに答えるというのが子供は非常に多かったわけでございますが、これはそれでいいわけです。九九というのがありまして機械的にばと出てくればいいわけですが、それは忘れた場合にはどうしようもないわけでございます。



それを、五足す七は十二という十二の数字を出す筋道を子供たちがその学習の時間に考えるようになった。すなわち五を十にするには五足すんだ。七を五と二に分けて五と五で十、あと二残るから十二なんだ。あるいはその逆もありますけれども、そうした考える筋道を子供たちがいい出し、学習の時間に学習するようになった。これが考えるようになった一例でございますけれども、そういうこと。

それから三番目に、教師自体が一時間、一時間が勝負なんだ。こういう考え方に立つようになった。指導を家まで持ち込まないんだ。教室で終らせなければいけないんだというかまえとそうした技術で努力するようになった。

それから四番目に、父母と、親たちと先生方、学校といえますかの連絡が今までより密になってきた。こういうことがいえると思います。

それから、一番大事な子供がどうなったか。こういうことでございますが、前にも話したことがあると思いますが、第一に忘れものがなくなったということが一ついえると思います。

二番目に、整理整とんのしつけができるようになったということがいえると思います。

三番目に、自分で家で勉強するめあてを持つようになった。これは学校に学用品を置くわけでございますが、きょうは国語を読んできた。国語の本を読んできましたといって、先生国語の本を持っていきますよというように、子供から自発的に先生に断わって本を持って帰る子供や、きょうは算数の本を持って帰りますという、一々先生方からの指示を待たないでいい出す子供が多くな

ってきた。

それから四番目に、家に帰って親たちにいろいろ報告をする。あるいは日記を書く、そういう子供がこれも自発的に進んで書くような子供が多くなってきておるといふ傾向は、今まで長く一年生を持った先生たちから今までの子供とはかわったよさではないかという報告があります。

それから、ある学校の先生はこういうこともいっております。からだがじょうぶになったと。一年生から六年生まで一緒に朝会をやっていると、大きいほうの子供は気持がわるくなって倒れるけれども、一番弱いはずの一年生が一番倒れない。これはほかの学年よりも多く遊んでいるからなんだ。こういう解釈をしておりましたが、そういう端的な結びつけができるかどうかわかりませんが、いろいろな面から、勉強の面から、しつけの面からあるいはからだの面から学校常置体制はよかったんじゃないか。こういう報告を得ております。

しかし、まだ完全じゃございません。今後、しおりによる指導体制は続けるとか、有線テレビによるいろいろの話し合いを続けていくというようなことは、今後さらに続けていかなければならないと思います。そして親もあるいは教師も、この新しい学力観、教育観というようなものを向いておりますので、そういう考え方をさらに確かなものにと持っていきたい。こういう考えであります。

そういうことでございますので、来年度の一年生は本年の一年生と同様な処置でいきたいと思っております。二年生に対してはさらに今の効果を保持して、そしてロッカーを二年生の教室にも全部



備えるという方向でいきたいと、こう考えております。

以上でございます。

(農業委員会事務局長岩崎一郎君登壇)

○農業委員会事務局長(岩崎一郎君) 土地の開発と土地の政策に對します御質問の中の第二点目の職権による地目変更の件につきまして数字を申し上げたいと思います。

六月以降の明細なることでございますので、月別に申し上げます。六月といましては十五件でございます。

七月が五十一件、八月が二十五件、九月が六件でございます。

なお、九月につきましては、先ほど市長さんからの答えにありましたように、法務局との申し合わせが成立した以降の月に該当します。この月じゅうに農業委員会が法務局より照会を受けた件数は三十九件ございました。なお、十月以降の分につきましてはまだ市に通知がまいっておりませんので、これは今回の調査にはちょっと間に合わなかったので、御了承願いたいと思います。

以上でございます。

○九番(辻田 実君) いつものことなんですけれども、答弁からいきますと、非常に問題のないように答弁があるわけなんです。今の答弁でもって私はほぼ全面的に了解して、そうして市長さんはじめ市の答弁に對して私は再質問の必要がないかと思っております。内容については私ははしがいて全面的に了解いたしました。

ただ、ここでもって一言付しておきたいことは、また質問したことは、そういっていながら現実と非常にかけはなれていると

いうことでございます。この点について私は質問にかえていきたいと思うわけでございます。

第一点の年末融資については、市長さんは八千万円のワケがあつて半分しか出てないので、まだたっぷりということをもってありますけれども、現実に銀行に行つて見ていただきたいと思う。金がなくて貸さないです。よ今年、私も労働金庫の役員やつておるものですから、去年の今頃は労働金庫で金を貸しますといつても借り手がいなかった。みんな市中銀行で貸しますということ。家を建てたり何でも貸した。店を改造しなさいということ。どんどん貸してきた。

しかしながら、今年は全然ゼロでもって、労働金庫で労働者の方たちはわざわざ貸す、貸せないで大げんかやっております。市中に行つたらいいだろうといつても、市中じゃ貸してくれません。というのが現状でございます。

先般の新聞に出ておりましたけれども、県の既設資金を借りに行つたけれども、ほとんどワケはあるけれども、うちに金がないからどうしたらいいですかといふことでいわれたということが新聞に出ておりました。館山市も同じです。

二、三の支店長から聞きましてたけれども、とても金がなくて困りました。年末に出しておるところの、商売をやるところの越年資金に對して借し出せるかどうかありません。辻田さんあんたは労働組合の組合長でもって一時金を大幅にくれなんて、二十万以上取つて、あんたは満足かもしれないけれども、払うほうの人の金がなくて借りにきておりますと、あつあつです。中小企業は金が借りられない。賃金は上る。払えなければ労働者



は東京に出ていっちゃうということで、たいへんなことになりましたよ。やはり金融事情にもう少し市なり、そういうところでも考えてもらわなければならないという話がそちこちにあるわけです。

こういう事情の中でもって、私はこの現実のギャップをどのように考えておられるのか。この答弁だと全く問題のない、非常に理想的な答弁でございすけれども、その点について非常に現実とこの論議が食い違っておるといふことについて遺憾であるといふことで、この点についてはもう一度どのように考えるか。

答弁の内容については先ほど伺っておりますから、そのようにしてもらえばいいんですけれども、こういう現実のギャップをどのように考えるか。第一点についてお伺いしたい。

第二点について、一、二、三、四特に三の柔剣道場については前は考えておらなかったといふことで、六月では考えておらなかったといふことでございましたが、今度は将来の課題として考えていかなければならないといふことに発展しましたので、私は非常に満足しておるところでございます。

ランドセルの問題についても教育長の答弁を聞いておりますと、理想教育そのものでもって、問題のないことのように、私は非常に安心のようでございます。

しかしながら、私も該当年令の子供を持っております。したがって、同級生とか、父兄やしょっちゅう出入りしてわかるんですけれども、現実にはこんなに理想的にいつてない。

今、いったことは、親のかわった姿勢、教師の受け方、また教師が真剣になるということ、日記帳の問題とか、宿題の問題これはランドセルの問題でこうなったわけでもない。元来、教育の理

想像であってこういうものを追究していくべきだということであって、こういうものはランドセルの廃止と直接云々という問題ではないと思っている。現実的には確かにそういう反面というのがあります。こういうものは追究されないというのがあります。

しかしながら、子供が遊ぶようになったとか、活動的になったといふことは、ランドセル廃止が、その施行すぐイコールというそういう問題じゃないと思います。もっと教育の基本理念の問題であって、そういうものがじわじわ出てきたということではないか。

学校の中においても日記の問題、宿題の問題ここで聞いていると一年生はということ、全体ということは区別されておりませんが、全体的には宿題はますますでています。年々多くなってきております。家にも小学校四年もいますが、ほとんど毎日見ておりますが膨大な量です。それをやっていかないと罰則があるんです。だれだれさんは学校で立たされて先生におこられましたとか、宿題やってないと、あんたばかだといふようなことでもってさんざんやられたということがあります。

館山二中なんか、宿題やってこないために立たされて、全員が反省させられたという体罰が出ております。だんだん出てきております。私は先生に聞いております。それぐらいしなければ子供がよくなりません。PTAは宿題を出してやる先生のほうを喜んでおります。やらなかったらたいへんなことになりますというの

は現実的に現場の先生がいつております。そういう問題がたくさんあるため、小学校の一年生のランドセルの問題で質問しているわけですから、確かにランドセルを廃止



したけれども、シヨルダー持っております。シヨルダー持つて子供がくるくる回わして道を歩いておる風景はよく見えます。交通事故の面からいえばあぶない面も私はかなり見ております。

そうして、親に聞けば、非常にシヨルダーは切れて補修がたいへんなので一年間で一個持たない、二回買った人もおる。経済的にも不利ですね。小学校の一年生は全く持ち帰りはしないでしょーといったら、いえそんなことはありません。けっころおにいさんやおねえさんと同じぐらい荷物を持ち運びします。内容は同じですよということをはほとんどいっております。

今の答弁聞いておると、全く宿願もないし、学校の中でおさまっておるし、そのために子供が活発になり、遊び中心、教育の内容もかわつてきて理想的で、本当にそのとおりお願いしますということですが、現実ではそうではない。ランドセルだつて、シヨルダーだつて同じです。経済的の効果でもつてむしろあの三月の議会の中で論議されましたところの交通違反の問題、経済性の問題ということからいえば、むしろランドセルのほうが長持ちするという問題も出てきておる。内容的には持ち運びもけっころ行なわれておる。量もそんなにかわつておらない、こういう現実には厳としてあるじゃありませんか。教育委員会のほうにどう入つておるかわかりませんが、抜き打ち的に学校に行つてその状況を調べていただきたいと思います。みんな一年生で持つて行つています。おにいさんやおねえさんと同じだということをおいっております。量もほとんど。そういう点は私は全くその現実とどうかということについて、この二点目についてお伺いしたい。

それから、土地開発の問題についてはかなり規制、その他やっ

ておるということでございますけれども、六月議会以降このように出ております。九月については六件というふうなことでございます。これはたまたま千葉県全体の法務局の登記官の不祥事件ということで警察が総合調査に入つて、一昨日の新聞にも印旛郡の登記官が逮捕されるというふうな、贈収賄事件でもつて出たとおりにも本格的な捜査が八月段階から出てきております。私も八月から九月に對して新聞社等数人からその実態はどうかということでもつて集まつておるから、かなり現時点で進んでおる。館山市から幸いにも不祥事件が出なかつたということについてはひととしております。この点どうか。

市長さんは、国有地の払い下げ等については、昔の旧地主に申請について云々ということをおいっておりますけれども、現実には旧地主以外にも相当ここ十年ぐらいの間で国有地、その他でだいぶ移つておる。こういう現実、農地の転用についても全然減つてないということ。どこに規制なり、歯どめがあるのか。この現実とのギャップを真剣に考えていただきたい。

それから、暴力追放についてでございます。六月議会のときの討論を思い浮べていただきたいと思います。辻田さん、あんたそういうけれども、渚は危険な状態にあるけれども、殺人事件なんか起こるようなことはまずないでしょう。そういうことが起きたらたいへんですといって、半年たないうちに事実起きたでしょう。こういうことがあつたらたいへんだから質問しますということが、起きたじゃありませんか。

先ほども申したように、干場の事件といい、国体の盗難事件と



いい、そうして暴力団の殺人事件これは全国でも例のない凶悪犯罪です。週刊紙をにぎわしてあるじゃないですか。

市長さんまた市の人とは関係ありませんけれども、市内で起きた事件じゃありませんか。

確かにその反面、青少年相談員は県の知事表彰を茂原と長生郡と館山市は受けた。りっぱな活動していますよ。している地域においてこういう干渉にしても若い人です。暴力団にしても若い人です。

きのうの新聞にしても、一億円の御殿を建てて、あそこに行けばすぐわかります。あれを二十歳か、三十歳の若い人間が一億円も出してあそこに毎日犬を引張って歩いている人間が、近所の人にはみんないていました一年前から、隠し電話も五本もあってそして何億という金をもうけてやっておるということがあるじゃないですか。これも予防できない。

きのうの新聞には高校生が集団万引きをしておるじゃありませんか。県下どこにありますか、子供が集団万引きを、高校生がやっておるといことが。新聞をずっと私は見ておりました。毎日どこそこのロッカーが破られた、どこそこに盗難だということで館山市は地方新聞見れば、盗難とどろぼうだけじゃありませんか、つかまるのはみんな青少年です。

私は、青少年相談員とか、民生委員とか、防犯協力会は不まじめだとか何とかいいません。一生懸命やっております。やっておるけれども、現実的には千葉県下でも、全国的にも例を見ないところの犯罪、わるいことが青少年をはじめ起きたじゃありませんか。この半年の間に。

私は、今の防犯協力会五十名の特別ななんかを配置したということでございますけれども、こんなもので私は追いつかないと思います。

十年前の国体において担当の会長が、一ランナーが酒を飲んで暴力ざたを起こして会長をやめて再建をはかって今日の体協ができております。

私は、市のほうから、市長さんのほうからむしろ暴力追放の議案が出てくるかと思いましたが、しかしながら現実には、議会でもって立法。その後には集団万引きの新聞が出る。そうして暴力団のノミ行為というものが千葉新聞はじめみんなすっぱ抜かれた。これはどういう因果関係かわかりませんが、花を飾ってくれた。すぐ効果が出たかどうかかわかりませんが、そういうことが出てきておる。

この現実を、市長さんのいう五十人の配置することによって防犯協力会着々やっておりますから、だんだんなくなる。そういうことはありませんということが、エスカレートしておるじゃありませんか。このギャップをどのように考えておるか。

私は、全体的な面については了解しておりますけれども、いつの議会でもそうします。意見にそってします。そういうことはありません。現実的には歯どめも行政もできてない。責任がない。責任のない政治は世の中乱れます。もう少し責任をはっきりしていただきたい。きれいな答弁はいりません。現実には世の中どうなっているかということでおることに、私はもう少し決意を新たにしていきたい。

以上の点について、総体的に私はそういうずれ、その点につい



てどのようにお考えになるか。御答弁いただきたいと思ひます。

〇 商工観光課長（鈴木 力君） 御質問の第一点につきましてお答えいたします。

金融引き締めによりまして、市内の中小企業の皆さんが資金繰りに年度末にきまして実際に困っているということでございますが、引き締めはこの春から行なわれておるわけでございまして、特に九月以降引き締めが強化されている。国内の経済全般にわたりましたの影響というものは相当大きなものがあるわけでございしますが、特に中小企業にとりましては資金繰りに心配されておるわけでございますが、館山市におきましてその状況を市内の金融機関等からいろいろとお聞かせいただいたわけでございますが、この規制というのは、窓口規制によって実施されておりまして、特に、大規模な設備投資あるいは開発資金とか、それから不動産業者への融資とか、そういう面につきまして相当きびしい引き締めが行なわれております。

なお、引き締め率でございすけれども、これにつきましては前年の貸付増加率の地方銀行におきましては五〇%、都市銀行においては四五%程度引き締めが行なわれているということでございますが、これは十月、十一月、十二月の四半期でこういうパーセントということでございます。

そこで、市内におきましては、特に一部特殊業者、たとえば申し上げますと、小さい建設業者こういう業者にとりましてはこの資材不足に加えて器材高騰、価格の高騰というようなことがございまして、しかも借りる場合に高利でかつ高利で資金を借りなければならぬ。こういうようなことから、さらにはまた手形の形

済等が今まで三カ月であつたものが四カ月、五カ月に延ばされたということ。仕入れの面におきましては現金支払いということが要求されておるのが現状でございます。したがしまして、こういうような建設業者等にとりましては、金融引き締めによる影響というものは大きい。こういうふうに考えております。

一般的には、先ほど市長からも申し上げましたように、年末にいきまして若干の融資ワケは狭ばまつておるということは考えられますけれども、困るという、全面的に借り入れができないということはないと思つております。

特に、制度融資におきましては全く借りられないということはないわけでございます。こういう現実があれば、市のほうに、私どものほうにお願いいただければ何とか処置をいたしたいと思ひます。

〇 学校教育課長（小宮義夫君） ただいま辻田議員さんの御質問の中で、教育長答弁があつたわけでございますが、教育長から教師の側から、子供の側から、父母の側から、こういう三点から答弁を申したわけでございますが、辻田議員さんのおっしゃるとおり一切これは教育の理念につながる問題でありまして、私たちとしては、学用品を学校に常置することを契機といたしまして、教育綱、教師の側からいへば教師側こういうものの形容をこれから大いに考え、話し合つていこうじゃないかということに答弁の形で教育長申し上げたわけでございます。

しかしこれが、九カ月の成果であるかどうかという問題は、これは理念の中からの問題としましては、なかなか具体的にはこれがそう。これが違うということの区分けができないわけでござ



います。

そういう意味で、この学用品を学校に置くという体制をこれを契機にこれから教育観、教師観これは教師だけの問題じゃございませんで、父母の方々とともに新しい学力観、教育観というものを見出していきたいという心がまえでもあるわけでございます。

そういう一つの例としまして、実はある父母の会があったときに、こういう事実がございました。それは、ここに一年生の国語の教科書を持っておりまされども、この中に一番始めにこの間学習をした内容として、鯨雲という題の文学物語がたいへん長い文章になってのっております。それは簡単に申し上げますと、

「子供たちが体操してました。そうすると、大きな鯨雲が空の上にあられれてきました。まっ白い鯨雲です。ぼくたちが体操すると、この鯨雲も体操を始める。ぼくたちがかけ出すと、この雲もかけ出す。回われ右をすると、やっぱり回われ右をする。転回をすると、この雲も転回をする。みんながたまりかねてこっちへこいという、鯨雲が、いいえこっちへおいでよという。」たいへん子供らしいそうしてたいへん高次な心情をつちかう題材でございませうけれども、これはただ、この文章を何回読んでも、これを繰り返し練習しても、もちろんそういう基本的な学習はこれは大事でございます。大事でございますけれども、これを本当に文章なりに解釈できる子供というのは、やっぱり十分野山でかけ回わらして遊んで、そうしてこういう経験をさしておくということが大きな一つの学力につながる問題だということを、これは教師もそう思ったし、父母の方々も本当にそうだと思った一場面にぶつかったわけでございますけれども、やはり新しい学力というの

は机上の学習だけが学力でないということを、これは私たちも前からそう思っているわけでございますけれども、とかく机上の学習に終始しがちであるという、そういう考え方をかえていく、そういうきっかけがこういうところから生まれればより幸いであると思うわけでございます。

辻田議員さん御指摘のように、ショルダーの長持ちの問題、もう三個も取りかえたという子供もいるようでございます。しかしまだ一個も取りかえてない子供もいるようでございます。いろいろ子供によって差がございませうけれども、こういう一つのきっかけが、こういう何か新しい一つの方向をめざしていくことを私たちは念願して、またその施策を講じていくわけでございます。

九カ月目でございますが、そういう意味でもう少し日時をかしていただければ幸いです。以上です。

〇農業委員会事務局長（岩崎一郎君） お答えいたします。

農地の転用の規制でございますが、もちろんこれは農地法に基づく規制で現実実施しておるわけでございますけれども、たまたま従来におきまして、大型開発につきましては、御承知のように二町歩以上のケースになりますと直接農林大臣ということで、われわれ相当委員会こうったような関係機関を頭越えていってしまふというような時代であつたわけでございます。

最近、県条例によりまして、〇・一あるいは〇・三ヘクタール以上の開発行為に対しては市長の意見書あるいは十町歩以上に対しては市町村との事前協議このような制度化はなりましたけれども、なおかつもう少し市の意向を取り入れたいというような足場を確保したいということから私どもも解釈しておりますけれども、



本年市の宅地等開発指導要綱こういったものが発足しておると、私理解しております。

このようなことで、何とかそれらの公に審議、相談するということの足場が得られるのじゃないか。このように考えておりますし、そういった所では、今後の農地の転用について大きなメリットがあるのじゃないかというように考えておりますし、今後ともこの要綱の市の意向を組み入れた方向で今後の転用業務を進めてまいりたい。こういうふうに考えております。努力してまいりたいと私も考えておりますので、御了承願いたいと思います。

それから、農地の職権の件でございますけれども、これはたまたま九月だけしかきておりません。十月、十一月の分は私も照会を受けた件数はわかっておりますけれども、これに対する結果が通知がきておりませんのでわかりませんけれども、おそらく同じようなパーセンテージでくるのではないかとような期待を持っております。従前のような例はまずないじゃないかというふうに考えております。

さらに、国有農地の払い下げのことでございますけれども、これは国有農地のことじゃないかと思えますけれども、私どもの所管でございますが、先ほど市長さんおっしゃられましたように、元の地主云々ということになりますと、おそらく国有農地だろうと思います。これは制度化されております。現在三年たっておりますが、現在まで三十二件、一・二ヘクタール払い下げが完了しております。以上でございます。

○助役（畠山 伝君） 暴力追放の点につきまして御回答申し上げますが、今までいろいろ防犯思想の普及等もいたしてまいっております。

るわけでございますが、今回のような事態が出来いたしましたことに残念に考えておるわけでございますが、今後とも十分この関係各団体とも連絡を密にいたしまして、この暴力追放の市民世論を大いに盛り上げて追放してまいりたいというふうに今後努力するつもりでおります。

○九番（辻田 実君） 五分の質問で二十五分の答弁で、再質問の余地がございませんけれども、一点だけ質問します。

防犯だけにしほりますけれども、書任問題あれですから、あれしますけれども、今の答弁ですと、今の体制でもって強化していく中で何とかなるというお考えですか。

私は、今の中ではどうにもならない。私は一昨日の決議案の中においてもそういうことも賛成して提案したわけです。改定してもう少ししっかりしたものになければならないということで、今の防犯協力会そのものについては体質的にも、内容的にも限界にきている。六月の議会で論議して、会長さんがあれだけ胸を張って答弁したんですから、これだけの事件が起きたということについては何らかのあれが出てきてもいい。その方法が質問されるべきだ。

その点については、今の強化の中でもって一定の前進があり得るかどうか。発展的に改組して市民的なものをつくる意思があるかどうか。あるのか、ないのかということだけでけっこうでございますので、一点だけ御質問申し上げます。

○市長（本間 謙君） これはやはり相当研究していかなければならぬわけですが、やはり住民の方々によってきたところの原因等を十分理解してもらうことが一番大事じゃないかと思っておりますが、



ひとり防犯協力会長の責任だというようなことでは、これはできないわけです。ですから、重要なことですから、取り締まり当局と相談して、そうして成果の上るようにこれから検討をしてみたいと考える次第でございます。

○議長（吉田勇治郎君） 九番議員の質問を終わります。

次、栗原一雄君御登壇願います。

（六番議員栗原一雄君登壇）

○六番（栗原一雄君） 今回の定例議会に私は三点を一般行政に対する質問いたしますが、三点はともに館山市における共通の問題でございますので、御理解をいただき御答弁をお願いいたします。

まず第一点は、館山市の総合計画基本構想の進捗状況についてでございます。館山市民に夢と希望を、この問題は市民であるすべての人々が考えていることと思えます。

今年三月定例議会において地方自治法第二条五項の地方公共団体の事務処理、運営の問題について質問いたしましたところ、本年度中に基本構想を発表するとの御答弁をいただきましたが、これは最も重要であり、館山市の基本となるものでございます。

基本構想は、大局的な基本理念に基づいた生活環境の施設の整備、自然環境の保全、南房総における産業の立地、交通体系、水の供給体系の整備等あらゆる面で効率よく各種の施設が統一的かつ有機的でなければならぬと考えます。

現在、当市においては各開発会社がレクリエーションの適地として進出計画を進めておりますが、事前協議の段階においても行政における基本である基本構想がありますならば、それと均衡を

はかりながら、積極的に開発を進めることが可能であり、それらに伴う短期あるいは長期的な年次計画、事業実施計画等も作成できるわけでございます。

しかしながら、時代の推移、経過等を考えますときに、部分的な施設、整備だけの必要を強調し、強行いたしますと、当然無秩序の乱開発につながるものでございます。

土地は有限であり、しかも生産が不可能でありますので、当然館山市の全般と周囲の社会的立地状況等を考慮しながら、適正かつ合理的な利用をはかるべく将来の可能性を含めた計画性が必要であろうと思えます。

第二点の週休二日制に対応する将来の観光開発の方向づけについてでございます。

現在の体制を考えますと、週休二日制の普及率は、従業員四千人以上の大企業については五二％、これは八月下旬の統計でございます。半数以上に達しており、労働省は昭和四十九年度の中小企業労働政策として週休二日制の普及促進を重点に置いております。

人手不足に悩む中小企業には省力化のための投資や工場設備の合理化に必要な生産設備費を長期または低利で融資しようという構想であり、首都圏を中心とした生産年令者の多くは必然的に時間的余裕により郊外に自然を求めて家族ぐるみのレクリエーションを健康管理面から風光明媚で温暖の地を求め、距離的な見地からも南房総を利用するものと考えられます。

当市は、国の指定する国定公園でもあり、国民休養地として絶好の場であろうと考えます。それらの条件的利点を生かした観光



開発を行なうべきであり、現況における観光の遅れはある意味では乱開発を防いだものであらうと思います。現在のには自然環境保全ということでは最先端をいくものであらうと思います。

館山市が本当に観光開発を真剣に考えるならば、将来の発展に立った構想を具体的に組み入れて行なうべきものであらうと思います。

第三点は、南房総における商業都市館山の中小規模事業所の育成と経済活動による生産性向上をはかるための行政指導のあり方をどのように考えているか。

特に近年は、大型店の地方都市進出は加速的なものがあり、館山市にも大型店の進出情報をしばしば耳にするものでございます。その是非は別としても、大型店の持つ魅力と吸引力は既存商店街の消費者の動向、人の流れを一変してしまふものでございます。

館山市のような商店街の再開発の遅れている小規模商店街では死活問題に発展するものとなりかねないのでございます。

たいへん重要な問題でありますので、以上の観点から三点について御質問いたします。以上でございます。

(市長本問 護君登壇)

○市長(本問 護君) 栗原議員さんの御質問に対しましてお答えを申し上げたいと存じます。

館山市総合計画につきましては、おおせのように三月の市会でしたか、本年度中につくり上げる。こういうことでございます。

現在、各課長とも一生懸命にこれに取り組んでおりますので、三月の市会には上程することに進んでおりますので、この点御了承願いたいと思います。

それから、週休二日制に対する観光開発というところでございますが、観光は大きく分けて交通問題、道路問題、受け入れ体制の充実こういうことがあげられるわけでございますが、まず交通問題としてはこれから考えなくちゃならぬことは、電車の複線化の運動とともに館山駅の改築問題、これは五十年も過ぎておるわけでございます。これにつきましては商工会議所でも、市でも議長さんとともにこれは運動を始めたわけでございます。

それから、一二七号線のバイパス線の建設、これを関係市町村議長さん方と陳情して現在調査費が一千万円ばかり入って調査しておるわけでございますが、これをぜひ実現をはかる。

また、山岳道路これをつくることで進んでいます。このほうはなかなか最近における経済事情で遅れるかと思いますが、これも促進をはかっていく。こういうことが必要じゃないかと思いますが、また館山市内の道路の全面舗装化もやはり観光につながることでございます。

それから、水道の設置も館山市では九〇%ぐらい水道はできておるわけですが、水がなかなか得られませんが、今、防衛庁の助成をいただいて作名地区に五〇万トンぐらいの貯水池をつくるべく今やっておるわけですが、それらと、また簡単に安く楽しめる場、それには鳩山荘もあり、休暇村の施設があり、また民宿の助成等生かしてこれをむかえるということですが、やはり館山は御案内のように国定公園の中心地でございます。自然の気候と風景があるわけでございまして、これは絶好のいいところでございますので、やはり自然の風景をそこなわないように、いわば緑をなくしないようにいろいろの面で対策を講じていくことも必要で



あろうかと思いますが、そういうことと、館山市に城山がござい  
ますが、これは五、六年かかってあのようになったんですが、あ  
れもやはり充実して一つの観光資源というようないええと  
思いますが、また受け入れ体制についてはいづゆる企業、会社で  
なければなかなかうまくいかない。市が企業をやるわけにまいり  
ませんで、いろいろ腰の島あそこを利用してやると申し出が幾つ  
もありましたが、なかなかうまくいかないんですが、鴨川のように  
投資をしてやるような企業があれば、それは誘致をしていきた  
い。こう思っています。私、考えてみますと、館山市内の宿泊  
する旅館は、大休海に面しないところが多いですね。これを海の  
ほうに行ってもらうというわけにもいきませんから、現在の建物  
を近代的にこれを改造するようなことであれば、資金もまた心配  
してあげたいということを私は旅館組合の総会やなんかでもお願  
いいたしますが、受け入れ体制の整備ということが必要だろうと  
思います。

なおまた、館山市ばかりでなく、南房総が連携して観光開発を  
やるし、観光宣伝ですか、広域圏観光と申しますか、そういうこ  
ともやっていくことが重要じゃないかと存じます。

次に、商業都市館山の中小企業の育成ということでございま  
すが、これはお説のように大型企業が木更津あたりでもできまし、い  
ろいろほうほうもやっておりますし、館山もあるいはあらわれて  
あるかもしれないんですが、館山では人口が少ないから企業家はど  
うかと思いますが、油断もならないと思いますが、こういう企業を  
やることはその土地の業者の理解がなければ通産省のほうでも許  
可しないということのようですが、館山市は今大型企業というん

ですか、そういうものは本当にいっぱいだろうと思います。これ  
以上誘致、きてもらうことは市としてもこれは歓迎はできないと  
考えておるわけです。

商業振興につきましては商工会議所、商店連合会等とともによ  
りましてやっておるんですが、これは商店経営に対する知識、店  
舗の診断、店舗の合理化そういうことも必要でありますし、また  
私は小さい商店は店主みずから先頭に立ってサービスをする  
こういうことが、やっていらっしゃるようですけれども、きわめ  
て重要じゃないかと思いますが、次には優良な従業員の育成これ  
は会議所でも、市でもやっておりますが、それらと相まって、ま  
た資金の面でですね。金融の円滑化ということも考えて対処しなく  
ちゃならぬと思いますが、なかなか小さい商店の方々は経営につ  
いてなかなかたいへんであろうかと思う点もございしますが、やは  
りあまり人を頼まずに家族ぐるみが店員となってサービスをやる  
ことも一つの方法じゃないかと思いますが、いずれにしても商工  
会議所、商店連合会を通じて、市のほうでも今申し上げたような  
面で育成、指導をいたしてまいりたいと考えておる次第でござい  
ます。

以上でございます。

〇六番（栗原一雄君） 基本構想は来年三月に発表する。このよう  
なお話してございます。もちろん基本構想でございまして、大  
いに早目にPRいたしまして、市民の一般の批判あるいは批評を  
大いに受けるべきである。その中からやはり館山の方向づけをす  
るべきであらうと思います。

五年ほど前でございますようか。館山市の都市計画の場合には



あまり一般にそういった問題を呼びかけないで、ですからややもすると一方通行的な考え方の都市計画だったろうと思います。私もその当時のことについていろいろ記憶はいたしておりますが、やはり早目に発表し、大いに批判あるいは批評を受けるのが私は当然のいき方だろうと、このように考えます。

それから今、市長さんが答弁のように、商店街の皆さんはやはり商店主みずから努力しなければ、あるいは優良なる従業員育成をすることだ。このように申されておりますけれども、館山市の人口の動態を調べて見ますと、私は先般グラフに書いてみましたが、非常におもしろい結果が出ております。

と申し上げますのは、やはり国勢調査と市の住民登録との多少の数字の違いはあろうかと思えますけれども、五年ごとに行なわれます国勢調査でございますので、ごく最近のものでございまして四十五年になるわけでございます。この統計を見ますと、三十五年当時でございますが、たとえば、十歳から十四歳の子供を見ますと七千五百三十二名、昭和四十年においては五千八百余名でございます。そして四十五年になりますと四千四百六十二人という数字が示されております。

これを、さらに社会人となります年令、一番生産年令者でございます。二十歳から二十四歳までの統計を見ますと、昭和三十五年では三千六百人、それから四十人になりますと三千五百五十四人、四十五年は四千三百六十二名、極端なお話し申し上げますと約半分に減ってしまっております。

これはやはり館山市に私は常に議会の中でも地場産業の問題を訴えるわけでございますが、そういう商店街構造あるいは所得の

得られる場所の育成をしていない大きな原因だろうと思います。

やはり、館山市は確かに福祉そういった面ではどちらにも負けない先進都市ではございますけれども、やはり教育、福祉その事業においては一般財源となります所得税収入ということが一つの裏づけになって具体的に事業を行なっていくわけでございます。

やはり、館山市の財源を生み出す努力、これは私は館山では非常に欠けているのではないかと。ですから、一番働き盛りになると館山市の人口が一挙に減ってしまう。そういったところに館山の苦しい一つの原因があるのではないかと思います。

さらに、一つの統計を私は取ってみました。本年度の一般会計でございますけれども、館山市においては総額に対する市税の割合は三六・一六％、これは今度の補正の数字を出してみたんです。当初においては三六・八二％でございます。茂原においてはやはり工業が盛んでございますので四二・四％、それから君津においては五〇％、木更津については三七・一％、私も先般経済委員会が行政視察にまいったのでございますけれども、防府市においては四八％余、町の一つの力と申しましょうか。ある意味では燭光、ある意味では工業あるいは商店街の構造改善をやったところにおいては非常にこの一般財源に占める割合というものは高い数字が出ておるわけでございます。

私は、昨年でございましょうか。館山市の福祉、福祉とおっしゃるけれども、もっと内容とのバランスを考えろ。このような話をし、またお願いしたわけでございますけれども、やはり福祉を行なうにしても財源確保というものをしなければ、これは裏づけをしていかなければできないということでございます。



そういった意味から考えまして、これからの商店街の再開発の問題についてお考えになっているかどうか。その点ひとつお答えいただきたいと思います。

○市長（本間 譲君） 館山市の財源は、やはり商工業者によるものが非常に多い。幾らかちょっと申し上げられませんが、いわけでございます。したがって、商工業の発展に対しては常に意を用いてやっておるわけでございますが、これはさいせんおもだったことを申し上げたんですが、商工会議所、商店連合会等と話し合って発展をはかる。こういうことでやっておる次第でございます。

○六番（栗原一雄君） たいへんありがたいことばでございますけれども、いわゆる観光、商工は、先ほどの市長さんのお話し聞いておりますと、水道も道路もすべて観光である。このようなお話しも聞いております。しかしながらこれは道路、水道はどちらでも必要な問題でございます。

現在のお答えでは、もちろん館山市の財源の大きなウェイトを占めているのは中小商店であるというようなお話しでございますが、当初の議会において私は商工観光費は構成費は一・七ではなにか。非常に少ないではないか。その時点の御答弁にも水道はやはり商工観光費の中に含まれる。このようなお話しを伺っておるわけでございます。実際には一・七という数字の構成費でございますが、これは観光費、商工費、商工関係費あるいは農漁業費それから農業も含まれるわけであるかと思ひます。

そういった意味で、やはりもっと本当に商工観光課というものがあるならば、商工観光課と、いわゆる中小商店である商工会議

所との関連、なお市長さんは過去商工会議所の会頭でございますので、もっとも理解を深めていただいて、大型店が出てまいりますと、現在御承知のとおりでございますが、木更津の場合は大型店でありますD店が出ますと、一応十一月一日のオープンの予定であったのでございますけれども、それをやはりカラー舗装する。アーケードをつくるんだからもっと待ってくれ。このようなことで申し込みまして、来年一月一日にオープンの予定でございます。それでさえも三階までということでございます。

なお、S店については商店街がその時点から現在二〇%乃至二五%の売り上げの減である。もちろん大型店の周辺の中小商店にあっては売り上げはプラスになっております。しかし全般的に見た場合には非常に脅威である。でございますので、当然来年度オープンいたしますD店に対しての反発は非常に多きいわけです。もちろん宇都宮であっても一年待ってくれということです。

それは、中小商店の再開発の、あるいは再開発の考え方として道路をカラー舗装する。あるいはアーケードをつくるんだというようなことでございますので、その期間がほしいということでございます。

館山にはそういうものが出る可能性は少ないという市長さんのお話しでございますが、館山はすでに出る予定の声も聞いておりますし、もうD店においては鴨川に進出ということで店員教育も行なわれておるといふようなことも聞いておりますけれども、これはたいへん大きな問題になるわけです。出てきてしまつてからの再開発では間に合わないわけでございますので、そのへんをよく行政指導の中で示していただきたいと思います。



ただ、これは商店主の努力をまつよりほかがないというような御答弁でございますが、やはり行政指導の責任があるのじゃないか。

もちろん、市長さんのおっしゃるように、館山市の財源は中小商店に占められているんだというお答えならば、もう少し積極的な市と商業関係者との話し合いがあつてしかるべきではないか。

国にはたくさん七、八百ぐらいの種類の補助対象がございますが農業に占める割合というのは約六五％、そういったものを考えますと、昔から士農工商といわれますが、商業者は常に貧乏くじを引いているというのが実情ではないか。そのように考えますが、どうか、これからも積極的に商店街と商工会議所との話し合いを進めていただきたいと思います。今年何回ぐらいそういった話し合いの場を持ったか。ひとつお答えいただきたいと思います。

○商工観光課長（鈴木 力君） 毎月一度定期的に商工会議所の正副会頭さん、それから観光協会正副会長さんを含めまして、市と商工会議所の事務局この四者で定例的に毎月実施しております。

○六番（栗原一雄君） 現在、NHKにおいてたいへん長期的に新里見八犬伝という人形劇が放映されておりますけれども、よその都市でございますと、そういった歌謡曲あるいはテレビで放映されますと、積極的にある意味では非常にじょうずに利用いたしております。

館山市ではそういったものをどういうように利用して館山を積極的に他市にこの機会にPRしようかというようなお考えになつたか、ならないか。ひとつお伺いしたいと思ひます。いかがでございますでしょうか。

○商工観光課長（鈴木 力君） PRいたしましたしては、現在のところキャラバンこれは観光協会に委託しておりますが、このキャラバンあるいはパンフレットを印刷いたしまして各方面に配布しております。あるいはポスターの掲示こういうことを主体として宣伝につとめておるわけでございます。

○六番（栗原一雄君） キャラバンは決してわるいことではないわけですが、いいことなんです。が、実際に館山市にまいりますと、そこにまいりますと、館山は非常にあたかくていいところだと、このようにいわれますが、まず何にもないところだな。それがまず第一点にあげられるわけでございますが、私も行政視察にまいりますと、各市町村については最も自分たちの町の利点についていろいろな形でPRしてございますが、館山に行政視察にいられたときに、館山はどこを御紹介しているのか。その点をひとつお聞きしたいと思ひます。自信を持ってこれが館山の町であるというところがあつたら、ひとつ教えていただきたいと思います。

○商工観光課長（鈴木 力君） やはり館山は豊かな海岸線、これが唯一の観光資源であるというようなことで北条海岸をはじめといたしまして、西岬方面の中に国民休暇村等もございますし、その他施設といたしましては南房バラダイスあるいは城山公園いろいろございますけれども、これらを主体といたしまして紹介いたしておるわけでございます。

○六番（栗原一雄君） たいへん豊かな海岸線でございます。

もちろん、昭和四十一年に長期観光計画が立てられまして、これも十年計画。前回の私本談会で追及しておりますが、実際には



五十年度に十年計画でございますので、本年度は四十八年も終ろうとしております。そういったことで残された二年間にどれだけやるのかというこのような御質問しておりますけれども、その結果、いわゆる首都圏における水の都、豊かな海岸線が現在の北条海岸のようでございます。しかし私は決して豊かだということは断定できないわけでございますが、そのように館山が実際に里見八犬伝の劇画が放映されてもあまり関心を示さない。それからりっぱな那古寺あるいは岸の観音、館山のPRを見ますと、よそにない公害のない町でございますので、夕日は非常にきれいでございます。夕日の写真がでかかとよその町にまいますと館山と観光と、このようにいわれておりますが、もう少しふうがあるのではないかと思います。いかがでございますでしょうか。

もっと館山というものは、NHKでいわれております館山、富山を中心とした八犬伝でございますので、それを見ておりますと常に館山ということばを使われておりますけれども、よその町でございますと、たとえば高松市でございますが、その町の発展のためにPRいたしますと、それに対して補助金を積極的に出しているわけでございます。いわゆる中小企業振興条例というものを設けております。

館山も南房総における商業都市館山、観光館山、私は観光にあつては観光通過都市のように常に申し上げておりますけれども、南房総における商業都市館山という考え方から申し上げますと、やはりよその町でもすでに中小企業振興条例を設けておりますのでそういったお考えがあるかないか。ひとつお答えいただきたいと思ひます。

○市長（本間 譲君） その問題につきましては、きわめて重要なことでございますので、いろいろ御指導を受けながら検討して、とにかく商店街がよくならないことには館山市の財政も豊かにならないことにつながるわけでございますので、十分検討していきたいと存じます。

○六番（栗原一雄君） 先ほど、市長さんから駅の改築の問題が出ましたが、駅の改築については必要性を私も常に論じております。そういったことで、もちろん広域診断も必要でございます。最近では近隣商業都市の競争でございます。木更津に大型店さらには五井、こちらにまいますと君津に大型店が今度三店出店する予定でございます。鴨川も大型店が出ますと、館山の大型店とまた魅力が違ひわけでございます。商店街が非常に狭くなりますので当然やはり商店街の再開発というものを私は声を大にしてお願いするわけでございますが、やはり都市間の競争ということになりますと、もちろん館山駅舎の改築も必要になるわけでございますけれども、これは駅を改築するというだけでなくして商店街を包含した再開発にもっていかなければ近隣町村に負けてしまう。商業都市館山これがやはりわれわれの考えている商業都市館山という、そのものが南房総から消えてしまふおそれも非常にあるわけですから。

どうか、そういった意味で今後の課題といたしまして、商業界の再開発、館山市の財源確保という点から御配慮いただきながら行政の中に入れていただきたい。

そのように考えまして、質問を打ち切ります。以上でございます。



○議長（吉田勇治郎君） 六番議員君の質問を終わります。

暫時休憩いたします。

午後二時二十三分 休 憩

午後二時五十八分 再 開

○議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

君塚喜三君御登壇願います。

（二〇番議員君塚喜三君登壇）

○二〇番（君塚喜三君） 君塚です。私は、歩行者天国の問題一点にしぼってごく簡単に御質問いたすものでございます。

このたび、実施されようとしております館山銀座通りに対する歩行者天国設置の問題について、これに伴う代がえ路線、とりわけ昭和通りをして歩行者地獄、大型車地獄さらには沿道の商店地獄としないか。私はその危険性が十分にあるとの認識に立つものであります。市当局はこの点に關しましてどのような見解を取っておられるかをお尋ねするものであります。

本問題に關しては、すでに過ぎた十月十九日国鉄自動車営業所並びに日東交通株式会社のそれぞれの労使代表と市当局において話し合いが持たれたところであり、私もこれに立ち会い一切を存じているところであります。その際、国鉄、日東の両者から強く訴えられたことは、これを要約すると、歩行者天国そのものに反対するものではないが、計画されている代がえ路線、とりわけ昭和通りについての大型車の運行はあまりにも危険を伴うものであり、その他の隘路とも合わせて取りやめの方向に善処されるより強く要請されたところであります。

ところで、その後もこの四日に関係者を招集して意見の集約を

はかられた由でありますので、今、私がここで詳細な質問要旨を申し述べなくても十分御理解の上、御答弁をいただけるものと思えますので、以上、簡単ではございますが、これをもって質問といたします。

（市長本問 議員登壇）

○市長（本問 議員） 君塚議員さんの歩行者天国に対する御質問に對しましてお答えをいたしたいと存じます。

今は、道路を住民に返せなどといわれておりますが、繁華なところでは全く買物にも困難のような場所があるわけでございますが、私はこのことにつきまして今から三年ぐらい前でしたか、歩行者天国をやったかどうかということを提案したんですが、そのときはあまり一般の方が進んでおらなかったわけでございますが、先般、銀座振興会からゼビナル写真館のところから嶋屋呉服店の前でしょおそらく。そこを歩行者天国に、十二時から四時です。四時間ぐらいの間を何とかしてもらいたいという要請がありました。四日の日でしたか、警察それから交通安全協会日東交通、国鉄バス関係者が集まりましたいろいろな協議をいたしたわけでございますが、今、君塚さんのおっしゃるように、その趣旨には皆さんが今の時点ですから賛成をされておるわけですが一つは道路の問題もだいぶ強調されましたが、その他今、ワンマンバスを運転するから狭い道路やなんかでは事故が起きて困るということ、さらに人を乗せるかなんかしなければいけないじゃないかというような話もありまして、いろいろやっただんですが結果におきましては、国鉄バスのほうも、日東バスのほうもやはり働く方々といういろいろさらに打ち合わせをしていきたい。こうい



うわけでございます。

私どもとしても、そう危険をおかしてまでもお願いをする意思はございません。皆さんが納得して、これならばというところの線がこなければ、これはそういう手続ですか、そういうこともいたさない考えでありますので、君塚さんが御心配なさることも当然のことでございますが、この間の経過につきましては、一応乗務員ですかの方々やなんかと相談して、また意見交換をしよう。

こんなようなことになって、決して強行しようとか、強行するわけではもちろんないわけですが、皆さんのいいところで時代に即したことをやるのが市の発展にもつながるし、また年寄りや子供が安心して買物ができるようにしてあげることも時代向きじゃないか。こういうふうに考えておりますので御了承願います。

〇二〇番（君塚喜三君）　まず、この質問の主旨に入る前に、一点について関連としてお尋ねをいたすわけでございますが、過ぎた八月一日づけの交通規制のお知らせとの見出しで、回覧で熱海荘前の交差点について交通規制を八月中旬から実施をする予定だ。これを市民に周知徹底をはかれたわけだが、これ一体どうなったのか。

この前、十月十九日の話し合いの国鉄自動車、日東交通これらの代表者との話し合いに立ち会ったとき、私の質問に交通課長は答えて、標識の予算がないのでそのままになっておるといふ答弁があったが、これに間違いございませんか。お尋ねいたします。

〇交通課長（山口　一君）　熱海荘のところの変則四差路の交通規制の件と思いますが、この規制につきましては県公安委員会のほうで実施いたしますので、公平委員会すなわち警察のほうからお

話しがございましたので、そのとき時点でお答えしたわけでございますが、さらに警察当局にお聞きしてみましたところ、実施はするけれども、現在まだ保留のままになっておる。そのような見解でございましたので申し上げます。

〇二〇番（君塚喜三君）　回覧板に対してどのような認識を持っておみえになるかわかりませんが、これは市民に対して周知徹底をさせるために非常に有効なものとして、いうなればこれは公器である。

これらにおいて、警察からの依頼で回覧をされたかわかりませんけれども、これを市民に周知徹底するからには、しかも所管課長として十分討議の上にこれを流されたと思うんです。

しかも、おかしいことには、金がないから標識ができない。これは八月一日づけですよ。予算というものは三月時点において設定されておるじゃないですか。いかにもいいかげん御答弁だというふうにし取れないわけです。この点、いかがでございますか。しかも、今の御答弁では金があればおやりになるということだろうと思うんです。いずれ実施するということですが、これだというと、またおかしなものができてくるわけです。今回実施されようとしておる歩行者天国に伴う規制と矛盾することになるんですよ。このままの実施をやったならば、その規制は不可能でございますよ。その点、いかがでございますよう。

〇交通課長（山口　一君）　先ほどの御答弁でことばが足りませんで申し訳ございませんでしたが、保留の意味の中には、たとえば歩行者天国を実施した場合には、今、御指摘のとおりあそここの熱海荘の交差点あれを通行について改善をはからなければならな



いという事態が生じてくるわけであります。

以前、示されました交通規制につきましては、熱海荘の四差路につきましては右折禁止の規制をするということでございますが、この歩行者天国の実施につきましてのお話しがございまして警察当局のほうで検討いたしました結果は、熱海荘のところから駅のほうに入る一方通行にしなければ実施できないというようにすることで、あれを従来検討しておりました右折禁止のままでおきますと、この歩行者天国というのが実施できないという状態が出てまいりますので、この歩行者天国等の実施ともからみまして、現在保留だというように聞いております。

〇二〇番（君塚喜三君）　そうしますと、あの回覧では、あの海岸踏切通りに対しまして、千葉銀北条支店のところから下に降りるいわゆる海岸に降りていく、これに対しては直進のみということになっておる。

それを今度、右折を認めよ。いわゆる右折を認めなければすべての車が駅に入ることができません。だからそうした場合には今度はその発表にあったように海岸通りからの進入は禁止、いわゆる海岸のほうに向けていく一方通行ということにならざるを得ないと思います。これは当然だと思います。

ところが、そうした場合に、それでは国道一二七号線から一二八号線に継続するものは、どこを一体通ることになりますか。千倉、鴨川方面に東京方面からきて入ってくる車を一体どこを通そうと計画されておりますか。その点、重ねて質問します。

〇交通課長（山口　一君）　一応、先ほど市長のほうからお答え申し上げました十二月四日の関係者によります協議会のときに警察

当局のほうから、もし歩行者天国を実施するとした場合には、どのような形になるということが示されたわけでございますが、そのときには、ただいまお話しのように、その時間帯だけ海岸通りの信号機のところへ上に上る車を一応ストップする。そのような説明がございました。

それで、そのときに、海岸通りの館山方面に走行する車についてはそのままずっと行っていたら下町に上っていたかどうかということ、それから八幡のシーサイドホテルの信号機のところから上に上っていたかどうか。そのように考えておるようでございます。

なお、先ほどお答えを落しましたが、熱海荘角の規制についての回覧によって周知いたしました点でございますが、そのようなわけでございますので、この歩行者天国の結果をなるべく早く出しまして、それによって訂正の回覧なり、また実施するということに趣旨の回覧なりを再度出したいと考えておりますので、御了承いただきたいと思います。

〇二〇番（君塚喜三君）　それでは、本旨に入ってお尋ねするわけなんです、昭和通り、嶋屋さんからこの通りになる昭和通り、これについて私、参考までに申し上げますけれども、嶋屋の入口の付近の道路の幅員、両方の側溝を含めて四メートル八〇なんです。あの側溝のふたなんてのは、あるところもあれば、ないところもある。しかも薄っぺらでちょっとあげればつぶれてしまうようなところも含めてです。

ところが、バスの幅員は二メートル四九あるんです。長さにおいて一〇メートル七〇、高さにおいて三メートル一三という大き



なものが入ってくるわけなんです。

ここで、お尋ねするんだけど、あの道路は現に二輪車を除いて一方交通にされておる理由はどこにありますか。二輪車を除いて現に交通規制が行なわれておる。こういうところに対してこういう大きなものを、しかもどのぐらい入ると思いますか、この前、十月十九日のときにも代表者から話があったように、あのときは、もっとも朝の十時から晩の五時まで日曜、祭日というようなことでございました。したがって、そのときの資料としては一分半に一両の割合です。日東交通については百四十四両、国鉄バスが九十九両これだけ通ることになるんですよ。

リヤカーを置いてもうにもならない。自転車一台置いてもうにもならないような道路に向かって、これを路線として指定する。これを無謀とお思いになりませんか。なんでも警察官や指導員があそこにくさん出てそのときは交通指導をやるとかおっしゃっておるそうだけれども、六軒町の距離と昭和通りの距離とのぐらいいちいさな違いですか。それぐらいいいならば、六軒町のところをそれだけ出て規制をやったら、この目的とするところの交通事故の防止の万全を期することができんじゃないでしょうか。

そのために、非常に大きな犠牲を払わなければならぬ。そういうところのために片方天国にするために片方を地獄にする。こういうことが市の行政としてやられていいものでしょうか。私はこの点に対して憤慨にないわけですよ。この点で再度お尋ねします。

○交通課長（山口 一君） 歩行者天国の実施の件につきましては、先ほど市長のほうより御答弁申し上げましたように、地元六軒町

の銀座振興会より実施の要望、陳情がございましたので、それに応じまして市があっせんの方場を取ったわけでございます。

これの本質的な考え方といましては、いわゆる交通安全対策の上からということになるかと思いますが、一応御要望におこたえして、それが実施できるか、できないかを検討している段階でございます。

先ほど、市長のほうで申し上げましたように、御賛同と申しますが、御納得が得られないとすれば、これは実施は非常に困難であろう。こういうふうに考えております。

○二〇番（君塚喜三君） 参考までに、なぜこのような問題が国鉄バス、日東バスそれぞれ労使双方から、それぞれやらない方向に善処を頼むといったようなこの前の申し入れになったかというその背景とするところに、一つにはこういうものがあるんです。

私、申し上げます。私も二十四年間ばかり国鉄のバスのハンドルを握ってきた。一番よくわかる。現在、交通事故に対する処罰がきびしいという一つのものがあるわけなんです。

例を申し上げます。昨年二月五日、私のかつての同僚が駅前ロータリーの横断歩道のところで、たまたま糖尿病で山崎病院に入院しておった老人が、駅の売店に新聞を買いに行った帰りに接触した。接触したからといって死んだわけじゃございませんよ。相当長い期間治療いたしましたけれども、かたわになったわけでもないにもかかわらず、横断歩道でやったことで最終的に六カ月の禁固、三年の執行猶予なんです。したがって、三年間に今後事故を起こしたら禁固刑です。首首罪です。妻子、親をかかえておる。路頭に迷わなければならぬ。こういう実態にあるから、現



在当人は、運転手です。運転手が免許書を営業所に預けてしまつて車掌として、通勤の送り迎えは奥さんがハンドル持つてきております。

こういう実態なんです。こういう実態を背景とすればこそなんです。強い反対の意思表示がなされておるわけなんです。この点をよくお考えいただいて、もっとも、交通安全対策基本法の第四条にはこのようになつております。これに地方公共団体の職務としてなつてあります。「地方公共団体は、住民の生命、身体及び財産を保障するため、その区域における交通の安全に対し、国の施策に準じて施策を講ずるとともに、当該区域の実情に応じた施策を策定し、これを実施する責務を有する。」としてあるんです。

果して、区域の実情に応じた施策でしようかこれが。こういった他の犠牲の上に、同じ市民の中であつて他の犠牲の上において天国をつくる。そのことによってほかのほろを地獄に追いやることなんです。こんな行政がありませんか。

もっと、そんなその場当たりの、先ほどの回覧板の説明のようないいかげんな考えのもとに実施をするというようなことをなくして、市はもっとなぜ都市計画の上に基礎的、基本的、恒久的な対策を講じられないか。それは今、なるほど銀座通りを拡張する、これはたいへんなことでしょう。しかしこれとて、それができないならば、せめて二階をそのままにして下を一問ぐらい下げる。そうしてアーケード式にすればそこを一台高くする。そこを歩道として、そうすれば今までの道路は車道となる。それぐらいのこととは行政指導として行なわれてもいいんではないか。私はそう考

えるわけです。

再度、この点についてしっかりと御答弁をいただきたい。

○市長（本間 謙君） 君塚さんは、だいたい御熱心にやっていたらっしゃることに對しては本当に敬意を表しますが、これは市が発案したわけでもございませんし、銀座振興会というのは、館山商店街の一番のところの方々がきて、何とかやれないか。こういう申し出を受けたわけで、それはだめだとも市としてもいわれませんか、この間のような会を持ったところがいろいろな点があるわけでございますが、もちろんこれを強行する意思もございません。また、危険度についても専門家について、やる場合には調べてもらわなくちゃいけないと思いますが、やはり住民の要望に對しては一応皆さんに相談かけてこれこれこういうふうだからだめだよとか、こういうふうにすればいいとか、そういうふうに納得のいくようにすべきじゃないかと思いますが、いろいろの点があると思いますけれども、しかしこれを強行しようとかなんとかいうことはございません。皆さんのいいところで、安全にやれるということであれば、これはけっこうだと思いますけれども、今はまだいろいろ検討する段階でございまして、決してこれを強行するとか、そういう意味は毛頭ございませんから、あんなの御心配なさる点はいくわかりますけれども、どうぞ、その点で御了承願いたいと思います。

○二〇番（君塚喜三君） 了解しました。

○議長（吉田勇治郎君） 二〇番議員君の質問を終わります。

次、安西益男君御登壇願います。

（一八番議員安西益男君登壇）



〇一八番（安西益男君） 私は、三点につきまして当局のお考え、御要望を申し上げる次第でございます。

まず、第一点といたしましては、補助金等審議委員会の設置と  
いうことでございます。補助金、負担金、その他これに類するもの  
の支出について適正な運用をはかり、かつ市政の健全化、そ  
して行政運営の合理化を期するため、審議委員会を設置してど  
うかということをお提案申し上げます。

小規模財政に対して、これら支出金は相当な比重を占めておる  
のが現状でございます。特に、県の出先機関等に対する負担金は  
とかく問題になっておる面もあり、これら支出金が公平であり、  
かつ公益上の必要はどうか。また対象団体等の適否、その他必要  
事項等について市長が委嘱し、学識経験を有する者で調査、審議  
し、その結果を答申する。こういう方法が絶対必要ではないか。  
このように存じておるわけでございますが、この点、当局といた  
しましてはどのようにお考えされておりますか、お尋ね申し上げ  
るものでございます。

二点目といたしましては、災害復旧資金の貸付制度ということ  
でございます。市民が災害の被害を受けた場合、その復旧に対し  
ては現在何ら救済策は講じられておらない。

一時的に、自己資金のみでは被害の復旧に困難を生じた場合、  
その損害の程度によって貸付制度を利用できるような対策を立て  
被害者救済に当たるべきではないかと痛感いたし、実施するよう  
御要望申し上げ、この制度のおもな内容につきましては、まず申  
し込み者の資格としては自己資金のみでは被害の復旧に困難であ  
り、かつ返済能力があると認められるもの。次は、債務の補償に

ついて確実な連帯保証人一名を必要とすること、さらに貸付金額  
は一件について五十万円までを限度とする。なお、貸し付けの利  
率は銀行利率の半額程度、据え置き期間は無利子とし、なお貸付  
期間は据え置き期間に六カ月とし、その六カ月経過後に三カ年乃  
至はできれば五カ年以内、概略このような方法でこの制度を実施  
してはどうか。この点、御提案申し上げます。

三点目といたしましては、市民住宅に集会所をどうか。この点  
につきましてはだいぶ前から強い要望が寄せられておるのでござ  
います。現在御承知のように、市営住宅は何をするにも会合  
の場所がないため極度に不便を感じております。

昨今のように、夜警時期ともなれば、詰める場所もないので、  
ほとほと困りはてておるといのが現状でございます。なおまた  
隣組の会合、その他必要があってもその場所がないため、何とか  
集会所をとの願いは切実のものでございます。

市当局におかれましては、これらの人たちの要望をかなえてや  
るお考えがあるのかどうか。この点、お伺いしたいのでございま  
す。

以上、三点につきまして、当局の適切な御回答をお願い申し  
上げる次第でございます。以上です。

（市長本問 議員登壇）

〇市長（本問 議員） 安西議員さんの御質問に対しましてお答え  
を申し上げます。

まず、補助金等審議委員会を設置してはどうか。こういうこと  
でございますが、そのおっしゃることはまことに私はけっこうな  
ことと存じますが、この補助金等につきましては、私が一々これ



を目を通して現在やっておる次第でございます。

負担金等については、ただいま安西さんからお話しがありまして、たように、ここでは土木協議会とか、農業委員会ですか、保健所の後援会とかいろいろあって相当の負担金を課せられておったんですが、三年前からこれは私は出すのには仲間にならない。しかしながら、その時点時点の負担金はそのつどしようということでは予算を組んであるんですが、土木協議会のほうは三年前で三十万今では四十万ぐらいになっているじゃないですか。農業改良普及事務所ですか、その当時三十五万、保健所は七万ですか、そういうのは集会のつど割り勘でやろう、こういうことを提案してやっただけでございますが、こういうことについてまたいろいろ意見もあると思いますが、私は知事のサービス機関であるそういう機関に税金をわれわれが出してやるということは適当でないと思っています。知事にも申し上げたんですが、あんたのサービス機関に必要ならば、あんたのほうで予算組んだらいいだろう。われわれの税金の中からそういうものを二重にやるのはまずいというふうに申し上げた。そういう関係者に私は相当にくまれているんじゃないかと思いますが、しかし私はそういうことはやるべきじゃない。そういうような御点で今の補助金とか、いろんなものを私が自分ではこれは検討してやっておるわけでございます、今のところはたいへん御趣旨はよろしいんですけれども、私におまかせ願って将来またこれを検討をするというふうなことで御了承をいただきたいと存じます。

それから、災害復旧資金貸付制度はまことに非常に適切な御意見でございますが、政府におきまして災害復旧法そういう助成法

ができておりまして、災害によってなくなった人は五十万円ですか。復旧のための資金も五十万円までを貸すという法律ができてまだ政令で細かいことはきませんけれども、この場合には、その市町村の条例で定めると、こういうことになっておりますので、これは安西さんのおっしゃるように政令でくわしいことがきた時点において館山市でも条例をつくってそれを生かしていきたい。非常に、これは私はいい御意見であると存ずるわけでございます。

次に、市営住宅に集会所を設備をどうか。こういう御意見でございますが、これも一応ごもつとものようにも思われますけれども、東京付近のように四百戸も五百戸もあるようなところは別でしょうけれども、二十戸や三十戸のところでは、やはりその地域の区ですか、町内ですか、そういうものが使っておるところを、使っていてやっぱり皆さんと親密にやっていくことが私はいいことじゃないかと思いますが、相当数ふえて百戸ぐらいになれば別でしょうけれども、今の時点ではやはり笠名なら等名にも集会所もいろいろございますから、青年館ですか、そこに住んでいらっしゃる住民とともに御利用してお互いに共存共栄でやっていくことが私はいいじゃないかと、こう考えておりますが、もっと将来住宅がふえた場合には安西さんのおっしゃるように考えていきたいと思っておりますが、現時点においてはその土地の部落の集会所をもっともっと利用くださることをぜひお願いをいたしたいと存じます。

以上、御回答申し上げます。

〇 一八番（安西益男君） ただいま、御回答をいただいたわけでございますが、まず、この政治の方向といえますか、しよせんは政



治は人間を対象にして一切がきめられていくわけでございます。  
したがって、政治をつかさどる政治姿勢あるいは政治理念そういうものが根幹をなす。このように確信しておるものでございます。

現政府の行なつてまいりました政治姿勢というものは、大資本乃至は大企業優先こういった姿勢に固執し、大衆の福祉行政というものは遅れておるわけでございます。これとても、やはり大衆に本位な政治姿勢というものを置くならば、当然こういったことも早くから解決されることは当然でございます。また、十分可能な立場にあるということも十分伺えるわけでございます。

これは自治体におきましては若干あるにしても、昨今国のそうした政策にできていない部面、そういった部門につきましては各地方自治体では先がけて実施している面もたくさんあるわけです。また、当市におきましても、老人に対する問題あるいは若干老人問題に関する点もありますけれども、その点を重点にということになれば、結局は幾つかのそういう実証というものがあるわけでございます。

したがいまして、私はこうした先ほど災害復旧の点につきましては適切な御回答をいただいたわけでございますが、逐次若干の御質問をしたいと思ひます。

審議会という件でございますけれども、今、館山市で行なっております補助金制度乃至は負担金の関係というものは、やはり多くのそういった見守っている中で公平な立場において学識経験を有する知識人の人たちにこの点を委嘱して、そうしてすっきりした形でもっていくということがこれは必要じゃないか。このよう

に強く感じておるものでございます。

比較的そういった今後のあり方という点につきましては、市長を中心に行なわれておることでございますけれども、知らない部面あるいはまた政治的な力によって運営ということがなきにしもあらずという点も感じられるわけでございます。

なおまた、現在該当されていない、当然というような部面もまたあるのではないか。こんな点も感じられるわけでございます。どうか、そういったやはり時宜に応じた、小規模財政をより堅実な方向に向けていく面からもさらにこの点を十分御考慮願いたい。このように御要望申し上げるわけでございます。

二点目の災害復旧費に対する貸付制度これはただいまも市長から早速にでもそういった理解が取られまして条例化をというようにお話しがございしますので、具体的に今まで昨年また本年ともこういった対象者が出ておるわけでございますけれども、現在まだ具体的な面がなかったというように、国に先がけてそういう条例をいうようなことでございますけれども、たいへんこういった今後の大きな一つの福祉行政のあり方としては敬意を表してお願ひする次第でございます。

最後の市営住宅に対する集会所の件でございますが、現在はそいう大世帯という箇所はあまりないわけでございます。特に強調されているところ、これは大賀住宅であります。なおまた、沼住宅等も以前から要望がございします。特に現在大賀の住宅の場合には軒数も非常に多いし、また自衛隊等のやはり八十数世帯というところが合同で一つの地域を形成し、一つの部落になつておる。

大賀の青年館、そういった部落等の集会所あるいは青年館とい



うものが現実には使用できないようなそういう立場にあるわけ  
です。

したがって、これはもう本当に熱心に、特に大賀の場合、  
場合によっては各人積立金をしてそうして市の助成をおおごう。

こういうこともぜひとも当局に十分お考え願いたい。こういうこ  
とでございしますが、重ねて特に全般的な面は、将来逐次そういう  
方向に持っていくただけのこととございしますけれども、  
そうした早急に、先ほども申し上げましたように、現在夜警も行  
なっておるわけでございしますが、狭い室二室、この中には家財道  
具もあるということから、何をするにも集まる場所がない。寒空  
に本当に市のあいつた建物を守るといふ面からぜひともそう  
いった集会所をつくってもらいたい。今、申し上げましたように  
場合によっては積み立ても若干始めていきたいというようなこと  
をいっておるわけでございしますので、重ねてこの点を御要望申し  
上げ、お答え願いたいと思います。

○建築課長（飯田治男君） ただいまの大賀の住宅のこととござい  
ますが、あそこは大賀の住宅それから航空隊の官舎等が含まれて  
別に富士見町内というふうに町内が独立しているわけでございま  
す。区長さんも私どものほうにこられました、そういう話も伺っ  
ております。

ただ、問題は、敷地の問題になりまして、敷地のほうの関係が  
きまればまたそれによって御相談しましょうということでお話し  
してあるわけでございます。

それから、福祉事務所のほうで今やっている青年館の建設につ  
きまして、なにか私、福祉のほうに伺いましたところ、町内単

位に計画を立てておるといふことでございますので、もし建てま  
す土地と地元の負担というものがまれば、また市のほうに申  
し出ただければと考えております。

○一八番（安西益男君） 敷地があれば考えていきたいということ  
でございまして、これは広い敷地というものはあそこにはないわ  
けです。しかし、そういった詰所を建てる程度の敷地があるわけ  
でございしますので、またこれは青年館ということになりますと規  
模も大きくなりますし、そういったことでひとつ敷地があればそ  
ういった方向に、特にあそこの場合にはという課長さんからのお話  
しもございしますので、どうか、できない方向に知恵をしぼらない  
で、できる方向に全力をもって十分ひとつその点をさような方法  
でもって実現に準めていただくようにとくと御要望申し上げます。  
以上、私の質問を終わらせていただきます。

○議長（吉田勇治郎君） ただいま、いとり屋の三階が火事だそう  
でございます。

一八番議員さんに申し上げますが、二番目の御解釈の中に、市  
長の答弁は、国でこういう制度ができたから、国からの政令の指  
示によって、今後は条例を市で採用するといふ御答弁がございま  
したが、国に先がけてという御理解のような発言でございました  
が、

○一八番（安西益男君） 私は、実はそういったように条例化をす  
るということ、市で条例化するといふふうに市長からお話しが  
あって、そのように解釈しておりますが、この点をとくと、はっ  
きりとお願ひしたいんですが。

○交通課長（山口 一君） 本年の九月十八日に、法律第八十二号



をもちまして災害弔慰金の支給及び災害援護資金の貸し付けに關する法律というものが公布されておりまして、この内容によりまして、先ほど市長のほうよりお話しのごさいましたように、災害により死亡した人に対して弔慰金を贈るということと、それから災害によりまして世帯主が負傷した場合、それから相当程度の住居とか家財に損害を生じた世帯それらに対して五十万円以内の貸し付けをするという制度でございます。

これは、給付につきましては、市町村が条例によって、条例を制定いたしまして給付をするというたてまえになっております。細かいことにつきましては政令によりまして規定されることになつておりまして、現在のところまだ政令の公布がされておりませんので、市の方針といたしましては、政令の公布された時点で条例制定を計上いたしたい。こういうことでございます。

〇一八番（安西益男君） それでは少しお尋ねしたいと思います。

實際、国まかせではこれはないんですよ。そういった意味で先ほど申し上げましたように、できることでありながらやらない。地方自治体もそれをまねするようなことではないけないと思ふんです。そういうことで市独自で、貸付制度ですから全額返ってくるわけです。その間の利子も若干あるわけです。

そういった面で、今いったそうした国のものにおおさつていくという面がいけないというんですよ。どうでしょうか。ですから、今いった全額返ってくるんです。それぐらいの施策ができないというようなことは私としては理解できないんです。

ですから、そういった制度をすみやかに条例化して国に先がけて条例化すべきではないかということをお望み申し上げているわけ

です。もう一べん姿勢といいますが、お考えをお聞かせ願いたいと思います。

〇市長（本間 譲君） 安西さんの災害時における救済条例でございますが、これはともかけ政府のほうでもそういうことでやっておりますが、市のほうでも早急に検討して安西さんのお考えのような条例をお願いをいたす考えでございますので、御了承願います。

〇一八番（安西益男君） 何べんも申し上げますように、一定の期間に全額返済するわけでございますので、どうか、その点を十分検討願いたいと思いますし、實際、国のあり方としては若干こうした広い範囲がないわけです。死亡とか、けがとか、家屋の被害にあった場合の自己資金だけでは百万円ぐらいかかるものが五十万しかない。何とか五十万捻出しようということは、政府が当然つくってあげなければ被害者の救済という面が置きざりにされておる。

そういう面では、昨今のように道路がどんどん上っていつて付近に住宅ができて以前からの家が盆地のようになって水がたまるという場合に、何とかしたい。こういう場合に、その場合三十万なり、四十万足りない。こういう自己資金に合わせて不足分をこういった制度によって貸し付けるといふこういう方法をぜひ私は必要ではないかということでありまして、どうか、この点を市長さんから市でもというお話しがございますので、この点近い将来御検討いただき、実現の方向に持っていただきたいと思いますけれども、重ねてこの点をよろしく。

〇助役（島山 伝君） ただいま、市長からできるならば検討する



一、休会

ようにというふうなお話しもございましたので、ちょうど法律も公布になっていきます。あとの政令待つばかりでございます。一八番議員さんの趣旨を考えながらやってまいりたいと思います。

〇一八番（安西益男君） 内容は若干違いますので、ぜひそういう方法で御検討願いたいと思います。

〇議長（吉田勇治郎君） 以上で、一八番議員君の質問を終わります。いとう屋の火災が意外に大きい情報が入っておりますので御了承願います。

以上で、通告による一般質問を終わります。

休 会

〇議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。  
議案調査のため、十二月八日及び九日の二日間を休会いたしましたと思えます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

〇議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって、八日、九日の二日間休会することに決しました。

散 会 午後三時五十四分散会

〇議長（吉田勇治郎君） 本日の会議はこれにて散会といたします。  
次会は、十二月十日午前十時開会といたします。その議事は、各議案の内容審議といたします。

〇本日の会議に付した事件  
一、行政一般通告質問



